

5.2 自然的状況

5.2.1 気象、大気質、騒音、振動等の状況

(1) 気象

① 降水量・気温・日照時間

計画地の最寄りの気象観測所は、図 5.2.1-2 に示す熊谷地方気象台である。熊谷地方気象台における令和 3 年の降水量、気温及び日照時間については表 5.2.1-1(1) に、過去 10 年間の降水量、気温及び日照時間の推移については表 5.2.1-1(2) に示すとおりである。

令和 3 年の年間降水量は 1,177.0mm、日平均気温は 16.0℃、最高気温は 37.2℃、最低気温は-6.4℃、年間の日照時間は 2,245.3 時間を記録している。また、過去 10 年間の年間降水量は 1,056.0～1,460.5mm、年平均気温は 15.1～16.4℃、日照時間は 2,071.3～2,366.3 時間を記録している。

表 5.2.1-1(1) 熊谷地方気象台における気象の状況(令和 3 年)

月	降水量(mm)			気温(℃)					日照時間(h)
	合計	最大		平均			最高	最低	
		日	1時間	日平均	日最高	日最低			
1	25.5	15.0	2.0	4.1	10.1	-1.1	18.1	-6.4	194.8
2	43.5	43.5	12.5	7.0	13.7	1.0	23.5	-3.2	244.0
3	100.0	60.0	13.5	11.6	17.0	6.6	25.3	0.3	207.3
4	46.5	29.0	11.0	14.6	20.6	9.1	26.6	4.4	227.5
5	69.5	24.5	6.0	19.4	24.7	14.8	30.3	8.7	152.2
6	212.5	79.0	51.0	23.0	28.3	19.0	31.8	15.1	146.0
7	192.5	35.5	27.0	26.3	31.3	22.8	36.4	19.2	161.7
8	186.5	54.0	14.5	27.4	32.0	24.0	37.2	18.4	173.0
9	106.0	25.5	12.5	22.2	26.1	19.0	32.4	15.7	115.8
10	86.0	55.5	7.5	17.8	22.5	13.5	30.5	6.9	175.4
11	43.0	36.5	10.0	12.4	18.2	7.3	23.4	0.0	219.7
12	65.5	33.5	9.0	6.6	12.4	1.5	19.9	-5.5	227.9
年間	1177.0	79.0	51.0	16.0	21.4	11.5	37.2	-6.4	2,245.3

注)「」は、統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値(資料が欠けていない)と同等に扱う(準正常値)。

出典:気象庁ホームページ

表 5.2.1-1(2) 熊谷地方気象台における気象の推移(平成 24 年～令和 3 年)

年	降水量(mm)		気温(℃)			日照時間(h)
	合計	日最大	平均	最高	最低	
平成 24 年	1,079.0	94.0	15.1	37.8	-5.6	2,255.4
平成 25 年	1,251.0	105.0	15.6	39.3	-4.8	2,336.2
平成 26 年	1,387.5	111.5	15.3	38.8	-4.7	2,366.3
平成 27 年	1,335.0	159.5	16.0	38.6	-4.6	2,168.2
平成 28 年	1,301.0	134.5	15.9	37.3	-5.7	2,071.3
平成 29 年	1,308.5	138.5	15.4	37.8	-5.3	2,294.8
平成 30 年	1,056.0	54.5	16.4	41.1	-5.3	2,308.3
平成 31 年 令和元年	1,460.5	250.0	16.1	38.4	-4.3	2,143.4
令和 2 年	1,364.0	76.5	16.2	39.6	-5.2	2,110.6
令和 3 年	1,177.0	79.0	16.0	37.2	-6.4	2,245.3

出典:気象庁ホームページ

② 風向・風速

熊谷地方気象台における令和 3 年の風向・風速は表 5.2.1-2(1)に、風配図は図 5.2.1-1 に示すとおりである。また、過去 10 年間の風向・風速の推移については表 5.2.1-2(2)に示すとおりである。

令和 3 年の年間最多風向は西北西、平均風速は 2.5m/s を記録している。また、過去 10 年間では、年間最多風向は北西～西北西、平均風速は 2.4～2.7m/s を記録している。

表 5.2.1-2(1) 熊谷地方気象台における風向・風速の状況(令和 3 年)

月	最多風向	平均風速 (m/s)	最大	
			風 向	風 速
1	西北西	2.5	西	12.4
2	北西	3.5	北北西	11.5
3	西北西	3.1	西北西	12.3
4	西北西	2.9	西北西	9.4
5	北西	2.2	北西	9.6
6	南東	2.3	北東	7.0
7	東南東	2.0	北	7.8
8	東	2.2	南東	9.3
9	東北東	1.8	東南東	5.8
10	西北西)	2.2	北西	9.5
11	西北西	2.1	北西	9.9
12	西北西	2.8	西北西	12.4
年間	西北西)	2.5	西北西	12.4

注)「)」は、統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値(資料が欠けていない)と同等に扱う(準正常値)。

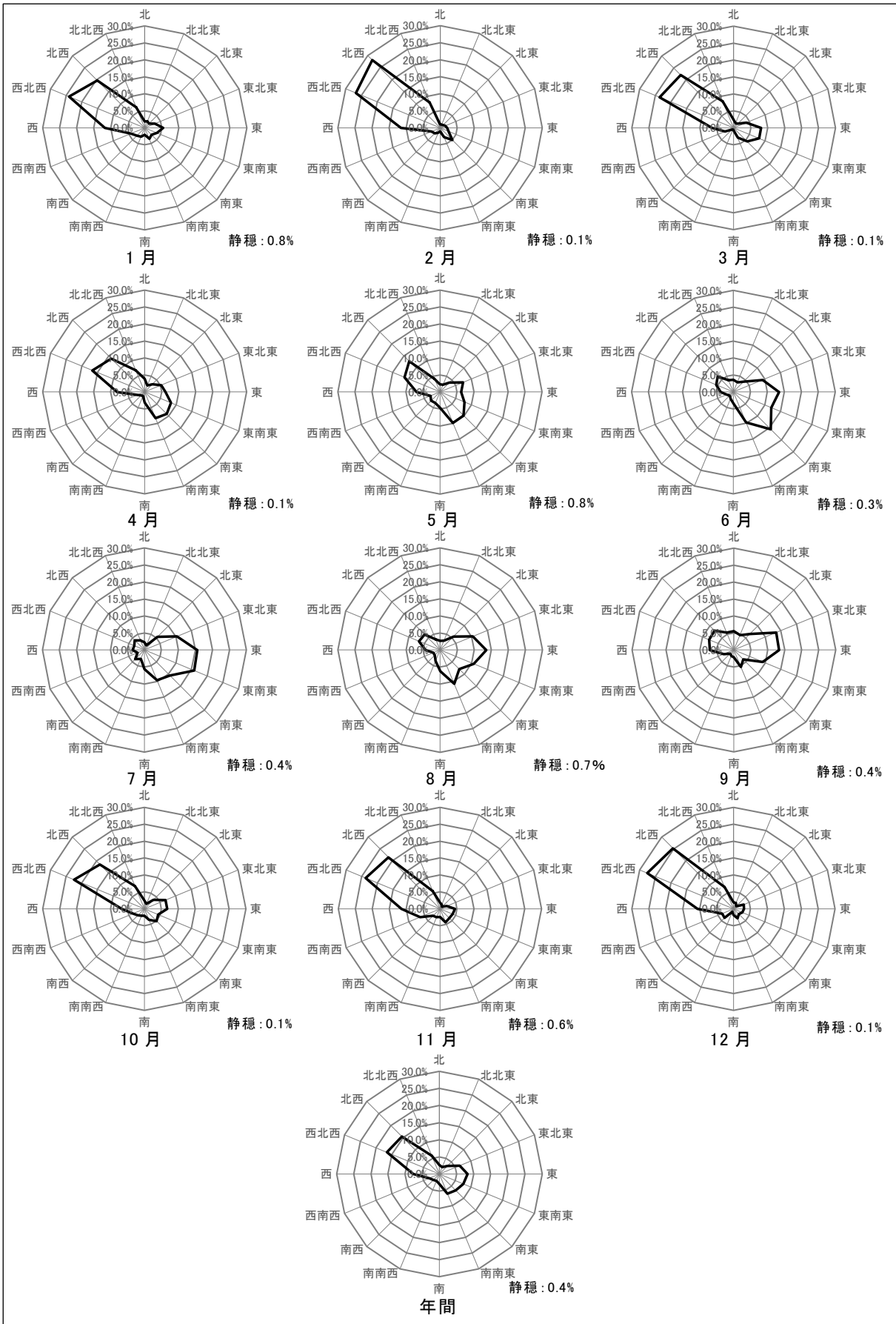
出典: 気象庁ホームページ

表 5.2.1-2(2) 熊谷地方気象台における風向・風速の推移(平成 24 年～令和 3 年)

年	最多風向	平均風速 (m/s)	最大	
			風 向	風 速
平成 24 年	北西)	2.7	南東	13.2
平成 25 年	北西	2.7	北西	15.4
平成 26 年	北西	2.6	北西	12.6
平成 27 年	北西	2.5	北西	11.5
平成 28 年	北西	2.4	南東	10.9
平成 29 年	西北西	2.6	北西	14.0
平成 30 年	西北西)	2.4	南東	15.9
平成 31 年 令和元年	北西)	2.6	北西	13.1
令和 2 年	西北西)	2.4	西北西	12.9
令和 3 年	西北西)	2.5	西北西	12.4

注)「)」は、統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値(資料が欠けていない)と同等に扱う(準正常値)。

出典: 気象庁ホームページ



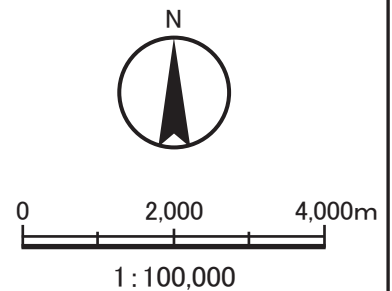
注) 静穏: 0.3m/s未満
 出典: 気象庁ホームページ

図 5.2.1-1 熊谷地方気象台における風配図(令和3年)



凡例

- ★ : 計画地
- : 市町村界
- : 気象観測所
- : 一般環境大気測定局
- ▲ : 自動車排出ガス測定局



出典:「地上気象観測地点一覧」(気象庁ホームページ)
「大気汚染常時監視測定結果報告書(令和元年度)」(令和2年12月、埼玉県環境部)

図5.2.1-2 気象観測所及び大気汚染常時監視測定局の位置

(2) 大気質

① 大気質の状況

計画地周辺の大気汚染常時監視測定局としては、図 5.2.1-2 に示すとおり一般環境大気測定局(以下、「一般局」という。)が 3 局、自動車排出ガス測定局(以下、「自排局」という。)が 2 局設置されている。令和元年度の各測定結果は、表 5.2.1-3(1)～(6)に示すとおりである。

二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質は、いずれの局も環境基準を達成している。光化学オキシダントについては、全局とも環境基準を達成していない。また、非メタン炭化水素については、寄居桜沢自排局は「炭化水素に係る指針」(昭和 57 年 1 月、中央公害対策審議会答申)を達成しているが、深谷原郷自排局は未達成である。

表 5.2.1-3(1) 二酸化窒素の測定結果(令和元年度)

区分	測定局名	年平均値 (ppm)	1 時間値の 最高値 (ppm)	日平均値の 年間 98% 値 (ppm)	環境基準 (達成○ 非達成×)
一般局	深谷局	0.008	0.042	0.016	○
	熊谷局	0.008	0.044	0.019	○
	小川局	0.005	0.029	0.012	○
自排局	深谷原郷自排局	0.009	0.045	0.018	○
	寄居桜沢自排局	0.010	0.045	0.018	○

出典:「大気汚染常時監視測定結果報告書(令和元年度)」(令和 2 年 12 月、埼玉県環境部)

環境基準:1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。

表 5.2.1-3(2) 二酸化硫黄の測定結果(令和元年度)

区分	測定局名	年平均値 (ppm)	日平均値の 2% 除外値 (ppm)	2 日連続 の有無	環境基準 (達成○・非達成×)	
					長期的 評価	短期的 評価
一般局	熊谷局	<0.001	0.001	無	○	○

出典:「大気汚染常時監視測定結果報告書(令和元年度)」(令和 2 年 12 月、埼玉県環境部)

環境基準:1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。

長期的評価:日平均値の高い方から 2% の範囲を除外した後の日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。

短期的評価:1 時間値が 0.1ppm 以下であり、かつ、日平均値が 0.04ppm 以下であること。

表 5.2.1-3(3) 浮遊粒子状物質の測定結果(令和元年度)

区分	測定局名	年平均値 (mg/m ³)	日平均値の 2% 除外値 (mg/m ³)	2 日連続の 有無	環境基準 (達成○・非達成×)	
					長期的 評価	短期的 評価
一般局	深谷局	0.011	0.033	無	○	○
	熊谷局	0.016	0.036	無	○	○
	小川局	0.013	0.039	無	○	○
自排局	深谷原郷自排局	0.014	0.033	無	○	○
	寄居桜沢自排局	0.015	0.037	無	○	○

出典:「大気汚染常時監視測定結果報告書(令和元年度)」(令和 2 年 12 月、埼玉県環境部)

環境基準:1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m³ 以下であること。

長期的評価:日平均値の高い方から 2% の範囲を除外した後の日平均値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、日平均値が 0.10mg/m³ を超えた日が 2 日以上連続しないこと。

短期的評価:1 時間値が 0.20mg/m³ 以下であり、かつ、日平均値が 0.10mg/m³ 以下であること。

表 5.2.1-3(4) 微小粒子状物質 (PM2.5) の測定結果 (令和元年度)

区分	測定局名	日平均値の 年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	日平均値の 年間 98% 値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	日平均値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を 超えた日数	環境基準 (達成○・非達成×)	
					長期基準	短期基準
一般局	深谷局	10.2	25.4	0	○	○
	熊谷局	10.1	24.1	0	○	○
	小川局	9.5	23.8	1	○	○
自排局	深谷原郷自排局	9.6	22.6	0	○	○
	寄居桜沢自排局	9.8	24.2	0	○	○

出典:「大気汚染常時監視測定結果報告書(令和元年度)」(令和2年12月、埼玉県環境部)
 環境基準:1年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。
 長期基準:1年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。
 短期基準:1日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

表 5.2.1-3(5) 光化学オキシダントの測定結果 (令和元年度)

区分	測定局名	昼間の 1時間値の 年平均値 (ppm)	昼間の 1時間値の 最高値 (ppm)	昼間の 1時間値が 0.06ppm を 超えた日数	昼間の 1時間値が 0.12ppm 以上の日数	環境基準 (達成○ 非達成×)
一般局	深谷局	0.037	0.146	96	1	×
	熊谷局	0.036	0.151	103	3	×
	小川局	0.033	0.119	91	0	×

出典:「大気汚染常時監視測定結果報告書(令和元年度)」(令和2年12月、埼玉県環境部)
 環境基準:1時間値が0.06ppm以下であること。

表 5.2.1-3(6) 非メタン炭化水素の測定結果 (令和元年度)

区分	測定局名	年平均値 (ppmC)	6~9時における 3時間平均値		指針の適否 (適○否×)
			年平均値 (ppmC)	最高値 (ppmC)	
自排局	深谷原郷自排局	0.12	0.12	0.91	×
	寄居桜沢自排局	0.10	0.09	0.24	○

出典:「大気汚染常時監視測定結果報告書(令和元年度)」(令和2年12月、埼玉県環境部)
 指針:「炭化水素に係る指針」(昭和57年1月、中央公害対策審議会答申)

午前6時から午前9時までの3時間平均値が0.20ppmCから0.31ppmCの範囲内又はそれ以下であること。

② ダイオキシン類

計画地周辺のダイオキシン類に関する大気汚染常時監視は、図 5.2.1-2 に示した一般局の深谷局及び小川局で測定が行われている。令和 3 年度の測定結果は、表 5.2.1-4 に示すとおりである。

令和 3 年度のダイオキシン類は、いずれの局も環境基準を達成している。

表 5.2.1-4 ダイオキシン類の測定結果(令和 3 年度)

区分	測定局名	調査結果(pg-TEQ/m ³)					環境基準 (達成○ 非達成×)
		第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	平均値	
一般局	深谷局	0.023	0.023	0.032	0.013	0.023	○
	小川局	—	0.0085	—	0.0045	0.0065	○

出典:「令和 3 年度ダイオキシン類大気常時監視結果について」(令和 4 年 8 月、埼玉県環境部)
環境基準:1 年平均値が 0.6pg-TEQ/m³ 以下であること。

③ 苦情の状況

関係市町のうち、公害苦情件数を公開している自治体における令和元年度の公害苦情件数は、表 5.2.1-5 に示すとおりである。計画地が位置する深谷市では、大気汚染に関する苦情は 14 件(全体の約 25%)となっており、「令和 2 年度版 深谷市の環境」によるとほとんどが野外焼却によるものである。

表 5.2.1-5 公害苦情件数(令和元年度)

市町名	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	土壌汚染	地盤沈下	不法投棄	単位:件
									合計
深谷市	14	2	5	0	2			32	55
熊谷市	2	5	2	0	3	0	0		12
小川町	公害苦情件数:25 件							15	40

出典:「令和 2 年度版 深谷市の環境」(令和 3 年 10 月、深谷市環境水道部)
「熊谷市環境白書(令和 3 年度版)」(令和 3 年 12 月、熊谷市環境部)
「小川町第 5 次総合振興計画 後期基本計画」(令和 3 年 3 月、小川町)

(3) 騒音

① 騒音の状況

計画地周辺における自動車騒音の面的評価結果は表 5.2.1-6 に、自動車騒音の調査位置は図 5.2.1-3 に示すとおりである。なお、計画地周辺では、騒音の点的評価は行われていない。

面的評価結果では、熊谷小川秩父線(2015-40360-2)、深谷東松山線の1区間(2015-41590-1)及び熊谷寄居線(2015-42670-1)で昼間・夜間とも基準値を超過する戸数がみられる。

表 5.2.1-6 道路交通騒音の面的評価結果(令和元年度)

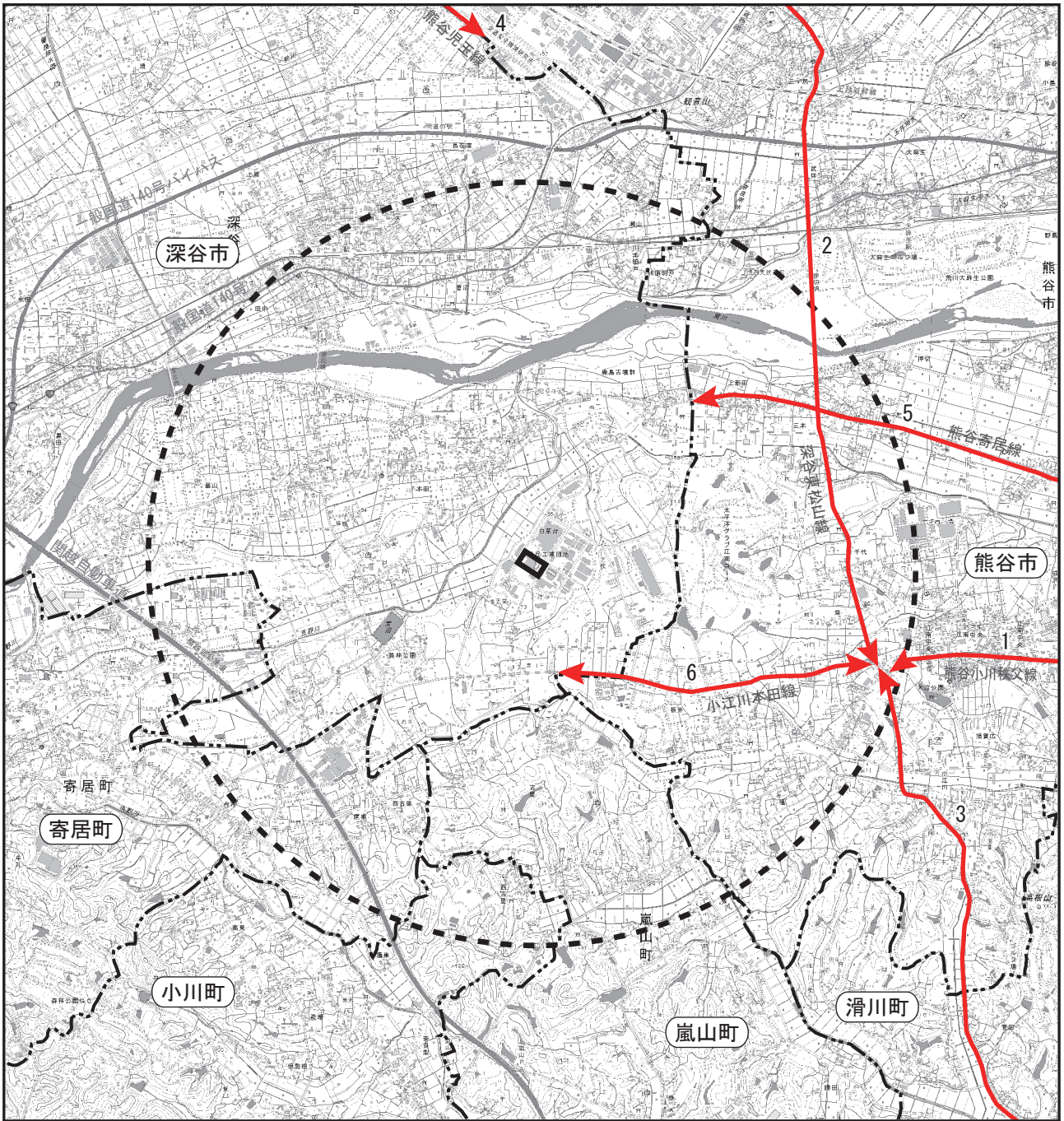
番号	評価区間番号	路線名	評価対象 住居等戸数 a=b+c+d+e	単位:戸			
				昼間・夜間とも 基準値以下 b	昼間のみ 基準値以下 c	夜間のみ 基準値以下 d	昼間・夜間とも 基準値超過 e
1	2015-40360-2	熊谷小川秩父線	595	594	0	0	1
2	2015-41590-1	深谷東松山線	412	403	0	0	9
3	2015-41600-1	深谷東松山線	107	107	0	0	0
4	2015-42420-1	熊谷児玉線	258	258	0	0	0
5	2015-42670-1	熊谷寄居線	257	256	0	0	1
6	2015-60560-1	小江川本田線	73	73	0	0	0

注)番号は、図 5.2.1-3 中の番号に対応する。

出典:「自動車騒音の常時監視結果」(国立研究開発法人国立環境研究所ホームページ)

② 苦情の状況

関係市町のうち、公害苦情件数を公開している自治体における令和元年度の公害苦情件数は、表 5.2.1-5 に示したとおりである。このうち、計画地が位置する深谷市では、騒音に関する苦情は5件(全体の約9%)となっている。



凡例



:計画地

↔ :面的評価対象区間



:市町界



:計画地から3km範囲



0 1,000 2,000m

1:50,000

注) 図中の数字は、表5.2.1-6の番号と対応している。

出典:「自動車騒音の常時監視結果」(国立研究開発法人国立環境研究所ホームページ)

図5.2.1-3 自動車騒音の調査位置

(4) 振 動

① 振動の状況

計画地周辺において、道路交通振動の測定は行われていない。

② 苦情の状況

関係市町のうち、公害苦情件数を公開している自治体における令和元年度の公害苦情件数は、表 5.2.1-5 に示したとおりである。このうち、計画地が位置する深谷市では、振動に関する苦情は 0 件となっている。

(5) 悪 臭

① 悪臭の状況

計画地周辺において、悪臭の測定は行われていない。

② 苦情の状況

関係市町のうち、公害苦情件数を公開している自治体における令和元年度の公害苦情件数は、表 5.2.1-5 に示したとおりである。このうち、計画地が位置する深谷市では、悪臭に関する苦情は 2 件となっている。

5.2.2 水質、底質、水象等の状況

(1) 水質

① 河川

計画地周辺の河川等の公共用水域における水質の状況は、表 5.2.2-1 及び表 5.2.2-2 に、各測定地点の位置は図 5.2.2-1 に示すとおりである。

計画地周辺では、吉野川及び櫛挽排水路で深谷市により水質測定が行われているほか、隣接する熊谷市でも市による水質測定が行われている。

深谷市の測定場所については、環境基準の適用はない。熊谷市については、環境基準が適用される荒川及び和田吉野川において大腸菌群数が環境基準に適合していないが、それ以外の項目は環境基準に適合している。

表 5.2.2-1 深谷市による水質測定結果(令和 2 年度)

測定場所		項目	pH (-)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)	DO (mg/L)
吉野川	落合橋		7.9	2.2	6.3	5.6	10.5
櫛挽排水路	パーカーアサヒ(株)下流		8.5	2.5	4.2	12.8	12.8

注) 上記の河川は、環境基準は適用されない。

出典:「令和 2 年度版 深谷市の環境」(令和 3 年 10 月、深谷市環境水道部環境課)

表 5.2.2-2 熊谷市による水質測定結果(令和 2 年度)

項目	測定場所	荒川	和田吉野川	和田川
		押切橋上流	上新田集落排水 処理施設下流	板井地内
		A 類型	B 類型	-
pH	(-)	8.3	7.6	7.8
BOD(平均値)	(mg/L)	1.0	0.9	1.0
BOD(75%値)	(mg/L)	1.0	1.1	1.0
SS	(mg/L)	2	5	5
DO	(mg/L)	10.7	10.4	10.3
大腸菌群数	(MPN/100mL)	19,575	37,075	59,000
T-N	(mg/L)	1.6	2.5	2.0
T-P	(mg/L)	0.062	0.09	0.040
カドミウム	(mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003
全シアン	(mg/L)	ND	ND	ND
鉛	(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001
六価クロム	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005

注) BODを除き、数値は年平均値。

出典:「熊谷市環境白書(令和3年度版)」(令和3年12月、熊谷市環境部環境政策課)

② 地下水

計画地周辺では地下水の概況調査が行われており、調査結果は表 5.2.2-3 及び表 5.2.2-4(1)～(2)に示すとおりである。

令和 2 年度の継続監視調査結果では、深谷市折之口でテトラクロロエチレンが、深谷市折之口、深谷市大谷及び深谷市長在家で硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が環境基準を超過している。

表 5.2.2-3 地下水の概況調査結果(令和 2 年度)

調査機関名		埼玉県	熊谷市	埼玉県	地下水 環境基準
調査区分		概況	概況	概況	
市町名		深谷市	熊谷市	嵐山町	
地区名		永田	三ヶ尻	古里	
井戸の 諸元	井戸深度 (m)	10	不明	不明	
	浅深井戸の別	浅井戸	不明	不明	
	用途	生活用水	生活用水	生活用水	
採水年月日		R2.9.3	R2.8.6	R2.8.3	
水質測定 項目 (単位 mg/L)	カドミウム	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	0.003
	全シアン	< 0.1	< 0.1	< 0.1	不検出
	鉛	0.003	< 0.001	< 0.001	0.01
	六価クロム	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.05
	砒素	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.01
	総水銀	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005
	アルキル水銀	—	—	—	不検出
	PCB	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	不検出
	ジクロロメタン	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.02
	四塩化炭素	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.002
	クロロエチレン	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.002
	1,2-ジクロロエタン	< 0.0004	< 0.0004	< 0.0004	0.004
	1,1-ジクロロエチレン	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.1
	シス-1,2-ジクロロエチレン	< 0.002	< 0.002	< 0.002	—
	トランス-1,2-ジクロロエチレン	< 0.002	< 0.002	< 0.002	—
	1,2-ジクロロエチレン	< 0.004	< 0.004	< 0.004	0.04
	1,1,1-トリクロロエタン	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	1
	1,1,2-トリクロロエタン	< 0.0006	< 0.0006	< 0.0006	0.006
	トリクロロエチレン	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.01
	テトラクロロエチレン	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.01
	1,3-ジクロロプロペン	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.002
	チウラム	< 0.0006	< 0.0006	< 0.0006	0.006
	シマジン	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	0.003
	チオベンカルブ	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.02
	ベンゼン	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.01
	セレン	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.01
	亜硝酸性窒素	< 0.005	< 0.005	< 0.005	—
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	8.5	9.1	0.37	10
	ふっ素	0.10	0.02	0.06	0.8
	ほう素	0.06	0.02	0.02	1
1,4-ジ'オキサン	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.05	

出典:「令和 2 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和 4 年 3 月、埼玉県環境部水環境課)

表 5.2.2-4(1) 地下水の継続監視調査結果(令和2年度)

調査機関名		埼玉県	埼玉県	埼玉県	埼玉県	埼玉県	地下水 環境基準
調査区分		継続監視	継続監視	継続監視	継続監視	継続監視	
市町名		深谷市	深谷市	深谷市	深谷市	深谷市	
地区名		折之口	折之口	人見	人見	大谷	
井戸の 諸元	井戸深度 (m)	3.5	6.3	不明	3	4.1	
	浅深井戸の別	浅井戸	浅井戸	深井戸	浅井戸	浅井戸	
	用途	生活用水	その他	その他	生活用水	その他	
採水年月日		R2.12.3	R3.2.25	R3.2.12	R3.1.27	R3.2.25	
水質 測定 項目 (単位 mg/L)	四塩化炭素	< 0.0002	—	< 0.0002	—	—	0.002
	クロロエチレン	< 0.0002	—	< 0.0002	—	—	0.002
	1,1-ジクロロエチレン	< 0.002	—	< 0.002	—	—	0.1
	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.031	—	< 0.002	—	—	—
	トランス-1,2-ジクロロエチレン	< 0.002	—	< 0.002	—	—	—
	1,2-ジクロロエチレン	0.033	—	< 0.004	—	—	0.04
	1,1,1-トリクロロエタン	0.012	—	0.0005	—	—	1
	トリクロロエチレン	0.008	—	< 0.001	—	—	0.01
	テトラクロロエチレン	0.023	—	< 0.0005	—	—	0.01
	亜硝酸性窒素	—	< 0.005	—	< 0.005	< 0.005	—
	硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	—	12	—	7.3	89	10

注) 網掛けは、環境基準値超過を表す。

出典:「令和2年度公共用水域及び地下水の水質測定結果(資料編)」(令和3年3月、埼玉県環境部水環境課)

表 5.2.2-4(2) 地下水の継続監視調査結果(令和2年度)

調査機関名		熊谷市	埼玉県	埼玉県	埼玉県	地下水 環境基準
調査区分		継続監視	継続監視	継続監視	継続監視	
市町名		熊谷市	深谷市	深谷市	寄居町	
地区名		三ヶ尻	長在家	長在家	富田	
井戸の 諸元	井戸深度 (m)	不明	6.2	6~7	7.3	
	浅深井戸の別	深井戸	浅井戸	浅井戸	浅井戸	
	用途	工業用水	生活用水	生活用水	生活用水	
採水年月日		R2.8.6	R3.1.27	R3.1.27	R3.1.26	
水質 測定 項目 (単位 mg/L)	四塩化炭素	—	—	—	—	0.002
	クロロエチレン	—	—	—	—	0.002
	1,1-ジクロロエチレン	—	—	—	—	0.1
	シス・1,2-ジクロロエチレン	—	—	—	—	—
	トランス・1,2-ジクロロエチレン	—	—	—	—	—
	1,2-ジクロロエチレン	—	—	—	—	0.04
	1,1,1-トリクロロエタン	—	—	—	—	1
	トリクロロエチレン	—	—	—	—	0.01
	テトラクロロエチレン	—	—	—	—	0.01
	亜硝酸性窒素	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	—
	硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	10	7.1	12	8.0	10

注) 網掛けは、環境基準値超過を表す。

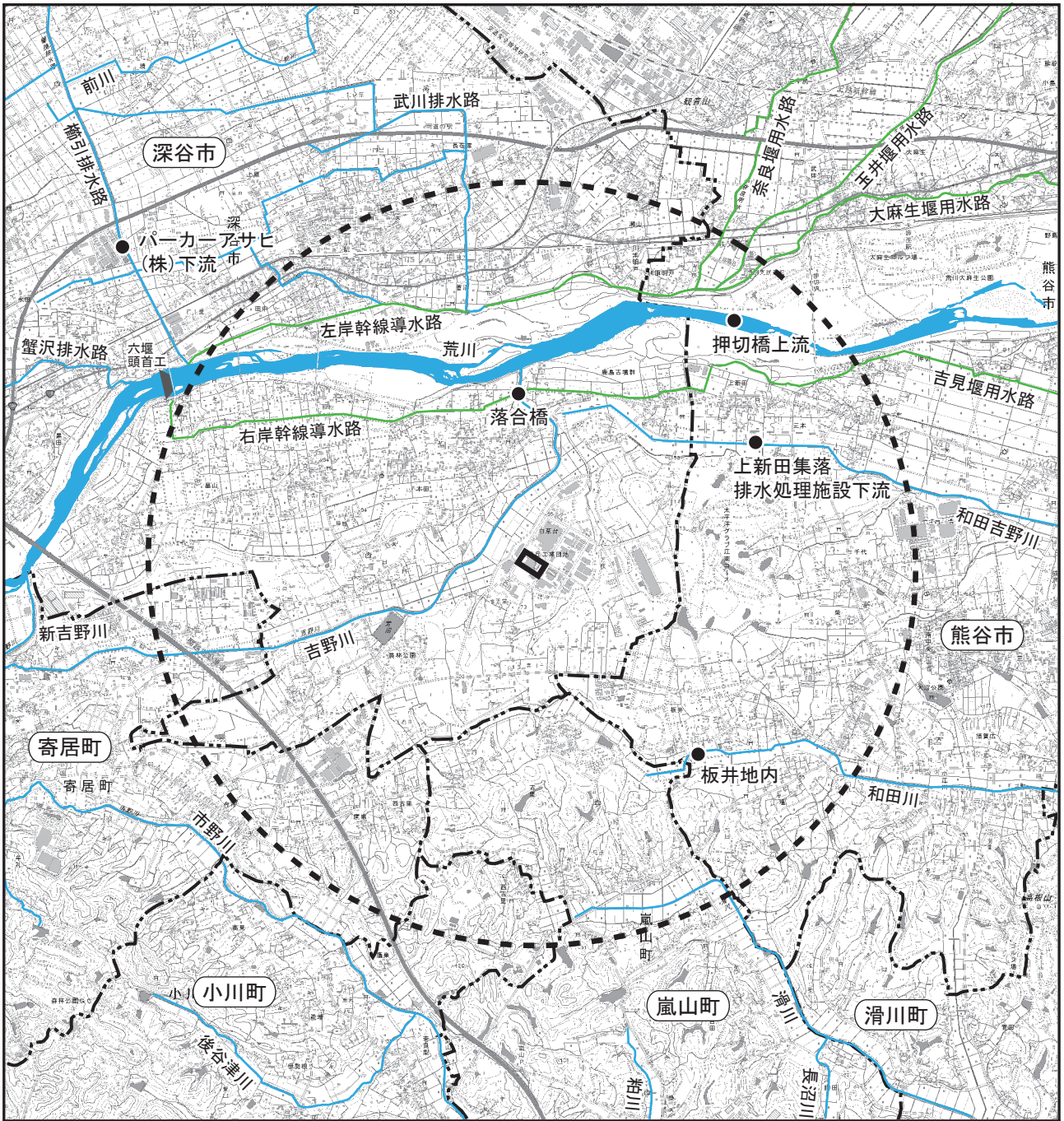
出典:「令和2年度公共用水域及び地下水の水質測定結果(資料編)」
(令和3年3月、埼玉県環境部水環境課)

③ 苦情の状況

関係市町のうち、公害苦情件数を公開している自治体における令和元年度の公害苦情件数は、表 5.2.1-5 に示したとおりである。このうち、計画地が位置する深谷市では、水質汚濁に関する苦情は2件(全体の約4%)となっている。

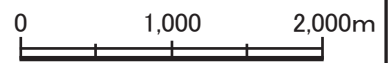
(2) 底質

計画地周辺では、底質の測定は行われていない。



凡例

- : 計画地
- : 市町界
- : 計画地から3km範囲
- : 河川
- : 農業用水
- : 水質調査地点



1 : 50,000

出典:「熊谷県土整備事務所管内図」(令和3年1月、熊谷県土整備事務所)
「国土数値情報 河川データ」(国土交通省GISホームページ)
「令和2年度版 深谷市の環境」(令和3年10月、深谷市環境水道部環境課)
「熊谷市環境白書(令和2年度版)」(熊谷市環境部環境政策課)

図5.2.2-1 水質測定地点

5.2.3 土壌及び地盤の状況

(1) 土 壌

① 農用地における土壌汚染

埼玉県では、農用地の土壌汚染状況を把握するため、銅、砒素及びカドミウムについて 5 年 1 巡で調査を行っている。

昭和 54 年～令和 2 年度までの土壌汚染状況調査結果は、表 5.2.3-1 に示すとおりである。各項目とも、全て土壌の汚染に係る環境基準に適合している。

表 5.2.3-1 農用地の土壌汚染状況調査の分析測定結果

調査年度		調査地点の分析測定結果											
		土壌中(乾物)								玄米中(現物)			
		銅(mg/kg)				砒素(mg/kg)				カドミウム(mg/kg)			
		最高	最低	平均	調査 地点数	最高	最低	平均	調査 地点数	最高	最低	平均	調査 地点数
一巡目	S.54～S.57 全県	32.3	0.1	11.3	90	11.8	tr	1.9	90	0.37	0.02	0.11	46
二巡目	S.59～S.62 全県	23.6	0.1	9.0	90	5.3	tr	1.4	90	0.30	nd	0.09	48
三巡目	H.元～H.04 全県	21.6	0.3	9.3	90	8.0	tr	1.8	90	0.38	tr	0.09	46
四巡目	H.06～H.09 全県	28.7	0.2	9.4	87	13.1	tr	2.2	87	0.30	tr	0.06	31
五巡目	H.11～H.14 全県	30.8	0.1	11.2	180	11.3	0.1	2.0	180	0.28	tr	0.09	50
六巡目	H.16～H.19 全県	21.5	tr	8.9	180	6.4	0.1	1.7	180	0.31	tr	0.06	47
七巡目	H.21～H.24 全県	21.7	tr	9.5	165	7.9	tr	1.7	165	0.22	tr	0.03	43
八巡目	H.26～H.29 全県	25.5	0.1	9.1	118	10.5	0.2	2.5	118	0.29	tr	0.05	31
九巡目	R.1～R.2 全県	24.4	0.7	9.9	57	10.1	0.4	2.8	57	0.22	0.02	0.08	17

注) 1. 環境基準は以下のとおりである。

銅(土壌 1kg) : 125mg 未満、砒素(土壌 1kg) : 15mg 未満、カドミウム(米 1kg) : 0.4mg 以下

2. nd: 検出限界以下 tr: 極微量検出

出典: 「令和3年版 埼玉県環境白書資料編」(令和3年12月、埼玉県)

② ダイオキシン類

埼玉県では、「ダイオキシン類対策特別措置法」に基づく土壌の常時監視測定（発生源周辺状況把握調査及び一般環境把握調査）を行っている。

令和元年度の関係市町におけるダイオキシン類の調査結果は、表 5.2.3-2 に示すとおりである。深谷市における発生源周辺調査結果は、「ダイオキシン類対策特別措置法」に基づく環境基準に適合している。なお、令和 2 年度においては関係市町での調査はされていない。

表 5.2.3-2 ダイオキシン類の土壌常時監視結果（令和元年度の発生源周辺状況調査）

所在地	測定地点名	ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)	環境基準 (pg-TEQ/g)
深谷市	人見	人見第四自治会館	5.2
	榎合	常世岐姫神社	2.9
	人見	人見柳沢公民館	2.1
	境	境ふれあいセンター	0.72
	榎引	榎引東部自治会館	3.9
	柏合	柏合北ポケットパーク	8.3
	岡部	南岡自治会館	5.1
	榎挽	榎挽北部集会所	3.5
			1,000 以下

出典:「令和元年度 公共用水域及び地下水の水質測定結果(資料編)」(令和 3 年 3 月、埼玉県環境部)

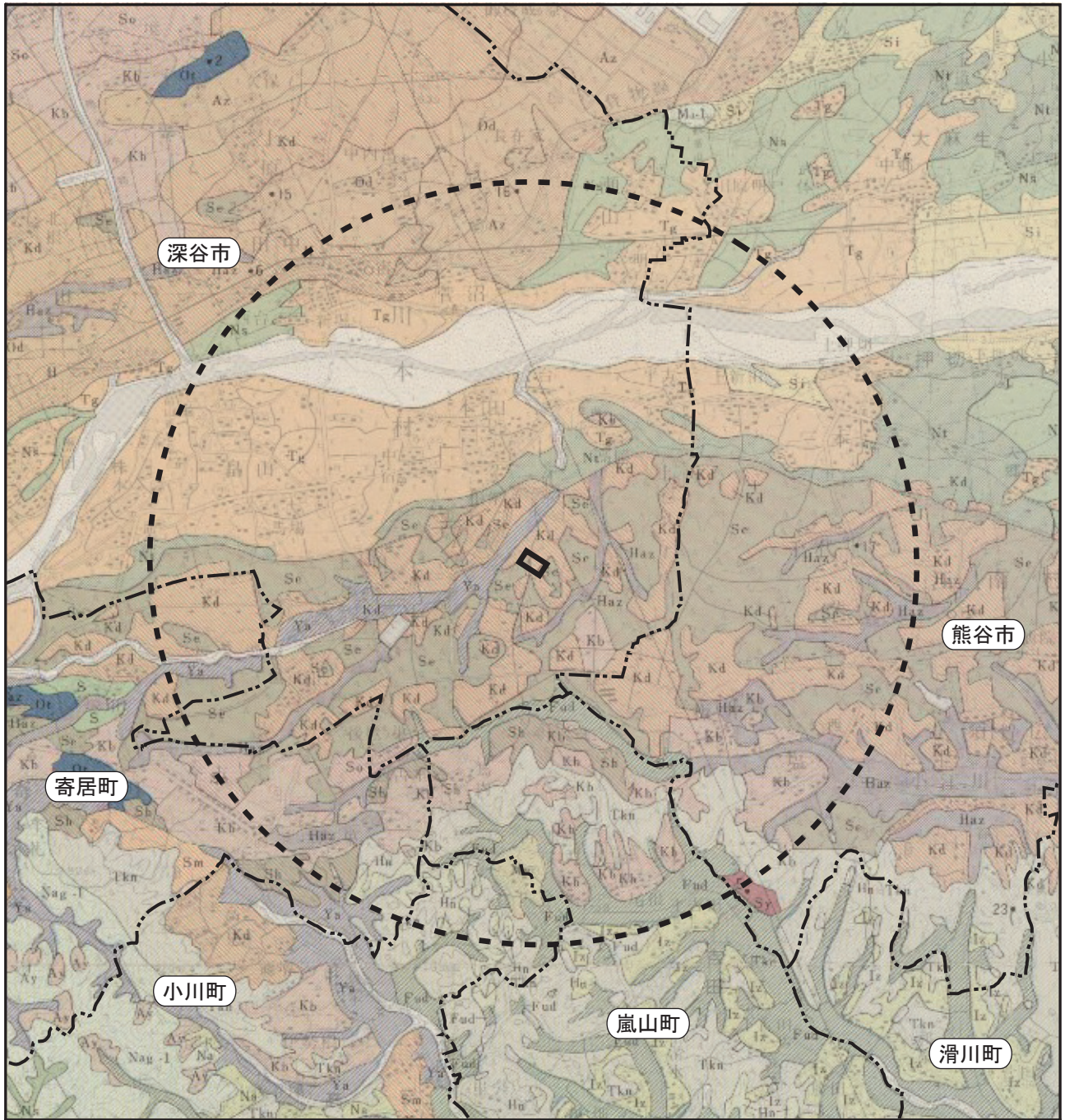
③ 土壌の分布状況

計画地周辺の表層土壌の分布状況は、図 5.2.3-1 に示すとおりである。

計画地は、主に淡色黒ボク土壌の「児玉統」及び「千代統」が分布している。計画地周辺については、このほか細粒グライ土壌の「山田統」がみられ、計画地北側の荒川沿いには褐色低地土壌の「勅使河原統」が広く分布している。

④ 苦情の状況

関係市町のうち、公害苦情件数を公開している自治体における令和元年度の公害苦情件数は、表 5.2.1-5 に示したとおりである。このうち、計画地が位置する深谷市では、土壌汚染に関する苦情件数は、該当数字なしとなっている。



凡例



: 計画地

--- : 市町界



: 計画地から3km範囲

厚層黒ボク土壌

Ot : 大竹統

黒ボクグライ土壌

Haz : 榛沢統

黒ボク土壌

Kb : 冑山統

Kh : 上広谷統

H : 花園統

So : 下大谷統

Sh : 将軍沢統

淡色黒ボク土壌

Kd : 児玉統

Sm : 杉の森統

Od : 小前田統

Az : 青瀬統

Se : 千代統

乾性褐色森林土壌

Mi-1 : 三カ山1統

Nag-1 : 長瀬1統

Tkn : 高根山統

褐色森林土壌

Iz : 石坂統

Na : 滑川統

Ay : 青山統

Hn : 広野統

Sh : 下神戸統

細粒灰色低地土壌

Fud : 福田統

褐色低地土壌

Si : 新戒統

Tg : 勅使河原統

灰色低地土壌

S : 清水統

Ns : 長瀬統

Nt : 仁手統

細粒グライ土壌

Ya : 山田統

出典:「土地分類基本調査 土壌図 熊谷」(昭和49年3月、埼玉県)

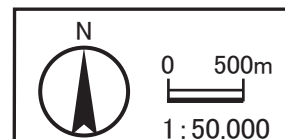


図5.2.3-1 土壌図

(2) 地盤

① 地盤沈下の状況

計画地周辺における平成 29～令和 4 年の地盤標高の変動量の測量結果は表 5.2.3-3 に、調査地点は図 5.2.3-2 に示すとおりである。

過去 5 年間の地盤標高の変動量は-3.7～-2.2mm であり、令和 3 年から令和 4 年の変動量は、-4.3～+0.8mm となっている。

表 5.2.3-3 地盤標高の変動量の推移

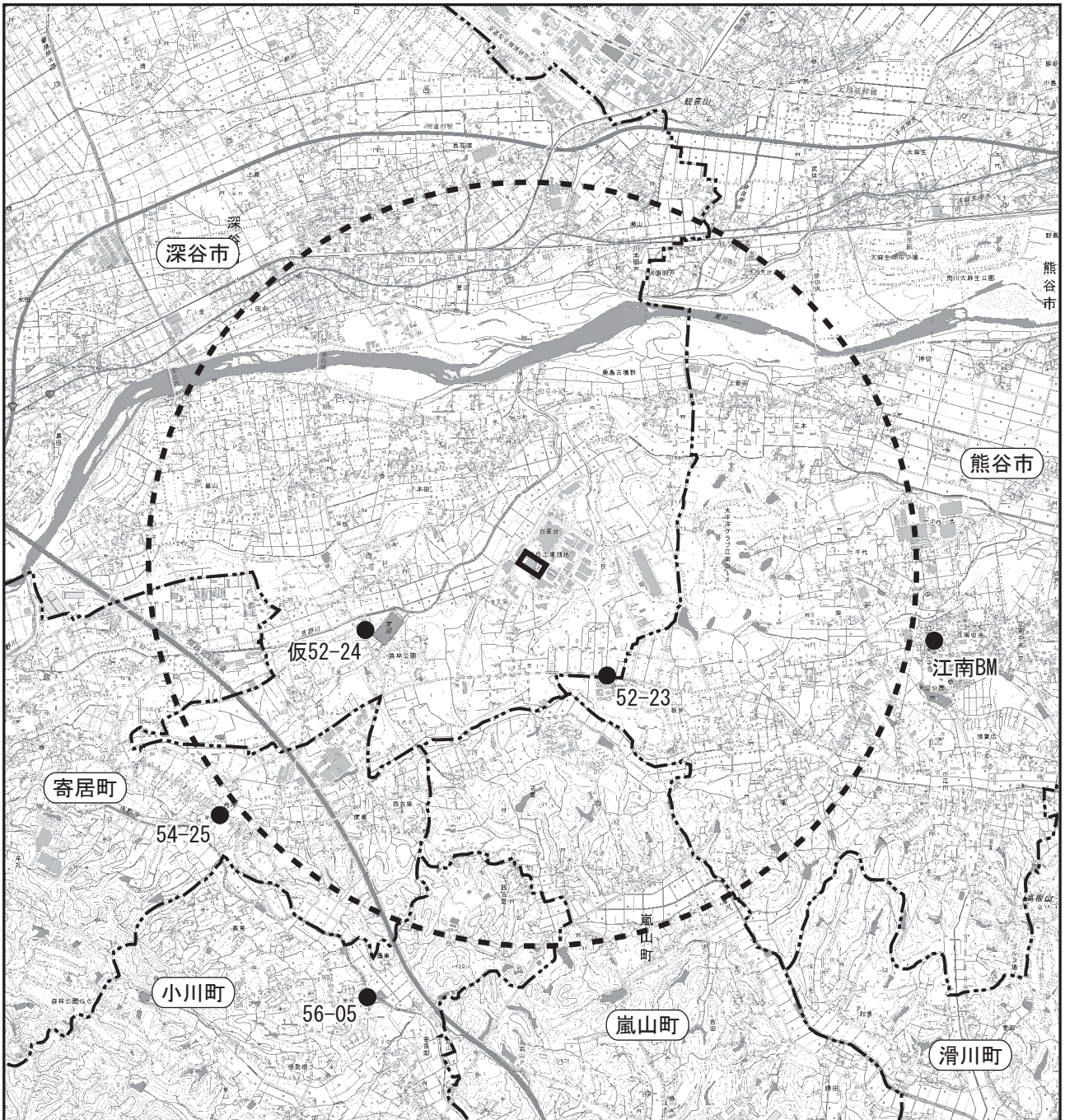
基標 番号	調査地点	調査開始 年月日 (平成) (昭和)	各年別変動量 (mm)					過去 5 年間 の変動量 平成 28.1.1 令和 3.1.1 (mm)	調査開始 年からの 変動量 (mm)	令和 4.1.1 の真高 (T.P.) (mm)
			平成 29.1.1	平成 30.1.1	平成 31.1.1	令和 2.1.1	令和 3.1.1			
			平成 30.1.1	平成 31.1.1	令和 2.1.1	令和 3.1.1	令和 4.1.1			
仮 52- 24	深谷市本田 5428-18 地先	53.1.1	-0.7	0.0	+0.8	-1.7	-0.6	-2.2	-44.9	76.3166
52-23	熊谷市板井 1696	9.1.1	-0.7	-0.3	+0.4	-3.3	+0.4	-3.5	-24.4	72.2257
江南 BM	熊谷市江南 中央 1 丁目 4	12.1.1	-4.2	+2.3	+0.8	-2.4	+0.8	-2.7	-26.7	61.7085
54-25	寄居町今市 700	55.1.1	-1.3	+2.0	-1.8	+1.1	-2.7	-2.7	-32.3	87.5432
56-05	小川町能増 282	57.1.1	-2.2	+3.8	-2.1	+1.1	-4.3	-3.7	-25.2	66.7768

注) 番号は、図 5.2.3-2 に対応する。





出典:「水準測量成果表 令和 3 年度」(埼玉県ホームページ)

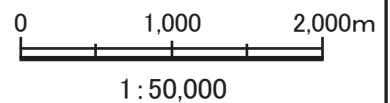
② 苦情の状況

関係市町のうち、公害苦情件数を公開している自治体における令和元年度の公害苦情件数は、表 5.2.1-5 に示したとおりである。このうち、計画地が位置する深谷市では、地盤沈下に関する苦情件数は、該当数字なしとなっている。



凡例

-  : 計画地
-  : 市町界
-  : 計画地から3km範囲
-  : 地盤標高の変動量の調査地点



注) 図中の数字は表5.2.3-3中の番号に対応している。
 出典: 「水準測量成果表 令和3年度」(埼玉県ホームページ)

図5.2.3-2 地盤標高の変動量の調査地点の位置

5.2.4 地形及び地質の状況

(1) 地形の状況

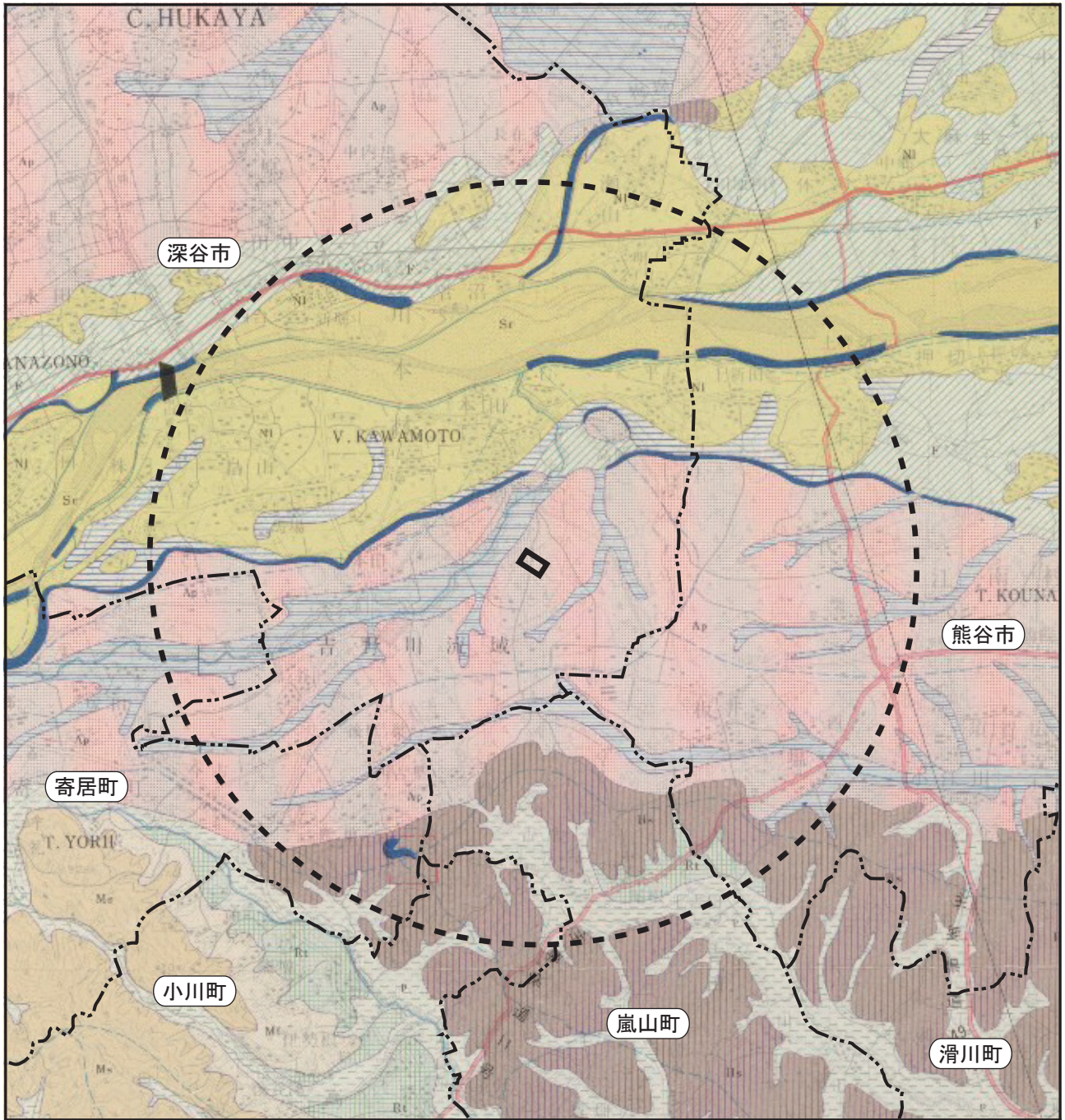
計画地周辺の地形分類は、図 5.2.4-1 に示すとおりである。

計画地周辺は、火山灰台地及び谷地田が広がっており、計画地北側の荒川沿いには自然堤防及び河原が分布している。また、計画地からやや離れた南側一帯は、丘陵地となっている。

(2) 地質の状況

計画地周辺の表層地質は、図 5.2.4-2 に示すとおりである。

計画地周辺はローム及び泥質堆積物からなり、計画地北側の荒川沿いには砂泥堆積物及び砂質泥堆積物が分布している。また、計画地からやや離れた南側一帯は、礫層、泥層及び砂岩・泥岩互層等が分布している。



凡例



: 計画地

--- : 市町界



: 計画地から3km範囲

山地

Ms : 小起伏山地

Mf : 山麓

丘陵地

Hs : 丘陵地

台地

Ap : 火山灰台地

Rt : 砂礫台地
(河岸段丘)

低地

F : 扇状地

p : 谷底平野

Nl : 自然堤防

Sr : 河原(現河道
の氾濫原)

その他

: 台地上の谷(谷地田)

: 崖

: 旧流路跡(旧河道)

: 堰

: 国道・県道

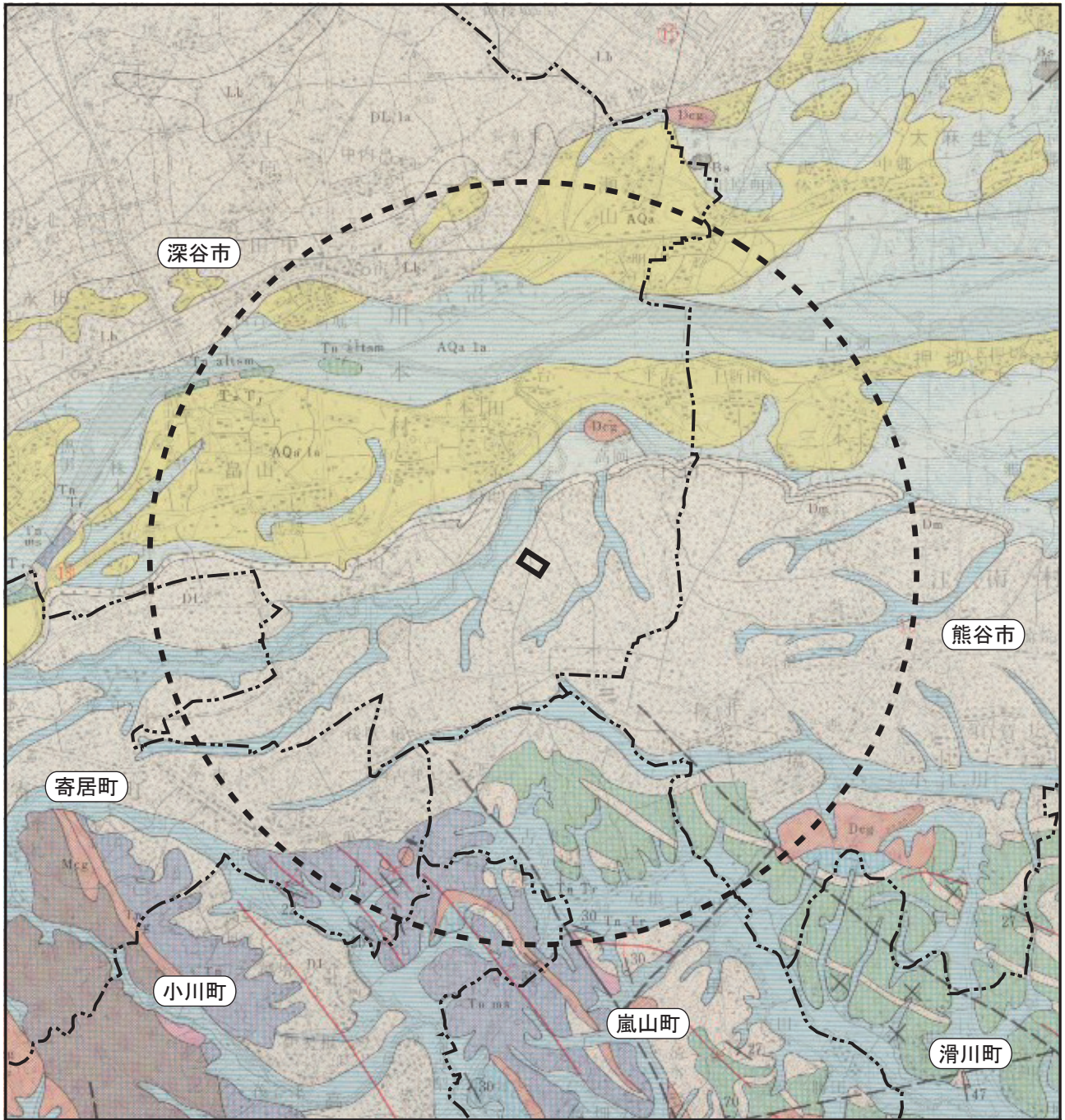


0 500m

1:50,000

出典:「土地分類基本調査 地形分類図 熊谷」(昭和49年3月、埼玉県)

図5.2.4-1 地形分類図



凡例

: 計画地

: 市町界

: 対象事業
実施区域
から3km範囲

半固結一固結堆積物

: 粘土

未固結堆積物

Qa : 砂泥堆積物
(河道・氾濫原)

Qs : 砂泥堆積物
(旧流路跡)

Qn : 砂質泥堆積物
(自然堤防)

Qa : 泥質礫堆積物
(後背湿地)

Qn : 泥質堆積物
(谷地田・後背湿地
の腐植土)

変成岩

Bc : 黑色片岩

固結堆積物

cc : 礫層

ms : 泥層

altsm : 砂岩・
泥岩互層

火山性岩石

Lb : 埋没ローム

L : ローム

Tr : 凝灰岩

時代

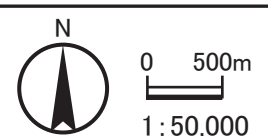
P : 古生代

M : 中生代

Tn : 新第三紀

D : 洪積世

A : 沖積世



出典:「土地分類基本調査 表層地質図 熊谷」(昭和49年3月、埼玉県)

図5.2.4-2 表層地質図

5.2.5 動物の生息、植物の生育、植生及び生態系の状況

(1) 動物

① 動物相の状況

埼玉県深谷市に位置する計画地は、「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(平成30年3月、埼玉県環境部みどり自然課、以下、「県RDB(動物編)」とする。)によると、地帯区分は「台地・丘陵地」に位置しており、標高50m～200mとなっている。

計画地周辺の動物の確認状況は、表5.2.5-1に示すとおりである。「埼玉県動物誌」(昭和53年3月、埼玉県教育委員会)、「埼玉県昆虫誌Ⅰ,Ⅲ」(平成10年、埼玉昆虫談話会)及び「埼玉県昆虫誌Ⅱ」(平成9年、埼玉昆虫談話会)、「河川水辺の国勢調査」(国土交通省河川環境データベース)より、深谷市及びその周辺で記録のある動物を抽出して整理した。確認種の多くは、一般的に農耕地や樹林地、市街地、河川敷等で確認される種である。

表 5.2.5-1 計画地周辺の動物の確認状況

分類群	各文献による確認種数		
	埼玉県動物誌	埼玉県昆虫誌	河川水辺の国勢調査 (荒川)
哺乳類	6目9科16種	—	6目10科14種
鳥類	16目41科110種	—	14目33科78種
爬虫類	1目5科10種	—	2目4科5種
両生類	2目6科10種	—	1目4科5種
魚類	7目15科41種	—	4目8科28種
昆虫類	—	20目331科3115種	16目202科989種

出典:「埼玉県動物誌」(昭和53年3月、埼玉県教育委員会)

「埼玉県昆虫誌Ⅰ,Ⅲ」(平成10年、埼玉昆虫談話会)及び「埼玉県昆虫誌Ⅱ」(平成9年、埼玉昆虫談話会)

「河川水辺の国勢調査」(国土交通省河川環境データベース)

① 貴重な動物の分布状況

計画地及びその周辺で確認された動物種のうち、表 5.2.5-2 の貴重な動物種の選定基準に該当する動物の一覧を表 5.2.5-3(1)～(5)に示す。

貴重な動物種として、鳥類では、国の天然記念物のシラコバトが、両生類では、国内希少野生動植物種のトウキョウサンショウウオが確認されている。このほか、県 RDB(動物編)の CR に該当する種として、昆虫類では、オオキトンボ、コオイムシ、ウラジロミドリシジミ、ミヤマシジミなど、魚類では、ホトケドジョウ、ムサシトミヨ、鳥類では、コアジサシ、アカショウビン、オオヨシキリ、コサギ、エゾムシクイなどが確認されている。両生類では、アカハライモリが確認されている。

貴重な動物の分布状況は、図 5.2.5-1 に示すとおりである。

表 5.2.5-2 貴重な動物種の選定基準

文献及び法律名	選定基準となる区分
① ・「文化財保護法」 (昭和 25 年 5 月、法律第 214 号) ・「埼玉県文化財保護条例」 (昭和 30 年 10 月 1 日、条例第 46 号) ・「深谷市文化財保護条例」 (平成 18 年 1 月 1 日、条例第 122 号)	特天:国指定特別天然記念物 国天:国指定天然記念物 県天:県指定天然記念物 市天:市指定天然記念物
② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年 6 月、法律第 75 号)	国際:国際希少野生動植物種 国内:国内希少野生動植物種
③ 「環境省レッドリスト 2020」 (令和 2 年 3 月、環境省)	EX :絶滅 EW :野生絶滅 CR :絶滅危惧 I A 類 EN :絶滅危惧 I B 類 VU :絶滅危惧 II 類 NT :準絶滅危惧 DD :情報不足 LP :絶滅のおそれのある地域個体群
④ 埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)(平成 30 年 3 月、埼玉県)	EX :絶滅 EW :野生絶滅 CR :絶滅危惧 I A 類 EN :絶滅危惧 I B 類 VU :絶滅危惧 II 類 NT1 :準絶滅危惧 1 型 NT2 :準絶滅危惧 2 型 DD :情報不足 LP :絶滅の恐れがある地域個体群 RT :地帯別危惧(「荒川以西」が含まれるもの)
⑤ 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」 (平成 12 年 3 月 24 日、条例第 11 号)	希少:県内希少野生動植物種

表 5.2.5-3(1) 計画地周辺で確認された貴重な動物

分類群	科名	種名	選定基準				
			①	②	③	④	⑤
昆虫類	モンカゲロウ	トウヨウモンカゲロウ				VU	
	ヤンマ	アオヤンマ			NT	VU	
	ヤンマ	オオルリボシヤンマ				VU	
	ヤンマ	ルリボシヤンマ				NT1	
	ヤンマ	サラサヤンマ				NT2	
	サナエトンボ	クロサナエ				NT1	
	トンボ	ハッチョウトンボ				EX	
	トンボ	キトンボ				VU	
	トンボ	オオキトンボ			EN	CR (EX)	
	カマキリ	ウスバカマキリ			DD	EN (DD)	
	クギヌキハサミムシ	クギヌキハサミムシ				NT2	
	アミメカワゲラ	アサカワヒメカワゲラ				NT2	
	アミメカワゲラ	フライソンアミメカワゲラ			NT	NT2	
	アミメカワゲラ	ヤマトヒメカワゲラ				VU	
	ツユムシ	エゾツユムシ				NT2	
	キリギリス	ヒガシキリギリス				NT1 (NT2)	
	キリギリス	ササキリモドキ				NT1	
	キリギリス	ヒメツユムシ				NT1	
	キリギリス	カヤキリ				EN	
	キリギリス	ヒメクサキリ				NT1	
	マツムシ	マツムシ				VU (EN)	
	コオロギ	クマコオロギ				NT1 (NT2)	
	コオロギ	エゾエンマコオロギ本土亜種				EN	
	バッタ	カワラバッタ				EN	
	バッタ	クルマバッタ				NT2	
	バッタ	ショウリョウバッタモドキ				NT2	
	バッタ	ナキイナゴ				NT1 (VU)	
	バッタ	ツマグロバッタ				VU	
	イナゴ	アオフキバッタ				RT (NT2)	
	イナゴ	ハネナガイナゴ				NT1 (NT2)	
	イナゴ	ヒメフキバッタ				NT1	
	イナゴ	ヤマトフキバッタ				RT (NT2)	
	イナゴ	セグロイナゴ				VU (NT2)	
	ナナフシ	エダナナフシ				VU	
	ハネナガウンカ	アヤヘリハネナガウンカ				NT1	
	ハネナガウンカ	キスジハネビロウンカ				NT1	
	アリヅカウンカ	アリヅカウンカ				NT1	
	セミ	ハルゼミ				NT1	
	サシガメ	ビロウドサシガメ				VU	
	サシガメ	キイロサシガメ				VU	
	ハナカメムシ	ズイムシハナカメムシ			NT		
	マキバサシガメ	ベニモンマキバサシガメ				NT2	
	ヒラタカメムシ	ケシヒラタカメムシ			NT		
	ヘリカメムシ	ヒメトゲヘリカメムシ				NT1	
	ヘリカメムシ	アズキヘリカメムシ				NT1	
	ツチカメムシ	シロヘリツチカメムシ			NT	NT2	
	カメムシ	イシハラカメムシ				NT1	
	カメムシ	ヒメナガメ				NT2	
	カメムシ	ズグロシラホシカメムシ				NT1	
	カメムシ	タマカメムシ				NT1	
キンカメムシ	チャイロカメムシ				NT2		
アメンボ	オオアメンボ				NT2		
アメンボ	ババアメンボ			NT	NT1		
ミズギワカメムシ	モンシロミズギワカメムシ				NT1		
コオイムシ	コオイムシ			NT	CR		
ナベブタムシ	ナベブタムシ				VU		
ラクダムシ	ラクダムシ				VU		
カマキリモドキ	ヒメカマキリモドキ				NT2		

表 5.2.5-3(2) 計画地周辺で確認された貴重な動物

分類群	科名	種名	選定基準				
			①	②	③	④	⑤
昆虫類	ツノトンボ	キバナツノトンボ				CR	
	ガガンボモドキ	ガガンボモドキ				VU	
	シリアゲムシ	スカシシリアゲモドキ				DD	
	ナガレトビケラ	ムナグロナガレトビケラ				NT (NT2)	
	アシエダトビケラ	コバントビケラ				NT (NT2)	
	ホソバトビケラ	ホソバトビケラ				NT (NT1)	
	セセリチョウ	キバナセセリ				NT2	
	セセリチョウ	ミヤマセセリ				NT1	
	セセリチョウ	アカセセリ			EN	EX	
	セセリチョウ	ホソバセセリ				NT2	
	セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ			NT	NT2	
	セセリチョウ	コキマダラセセリ				VU	
	セセリチョウ	オオチャバナセセリ				NT2	
	セセリチョウ	コチャバナセセリ				NT2	
	セセリチョウ	スジグロチャバナセセリ北海道・本州・九州亜種			NT	VU	
	セセリチョウ	ヘリグロチャバナセセリ				NT1	
	シジミチョウ	ウスイロオナガシジミ				VU	
	シジミチョウ	オナガシジミ				NT1 (CR)	
	シジミチョウ	ウラゴマダラシジミ				VU (NT1)	
	シジミチョウ	コツバメ				NT2	
	シジミチョウ	オオミドリシジミ				NT1	
	シジミチョウ	ウラジロミドリシジミ				CR	
	シジミチョウ	ジョウザンミドリシジミ				CR	
	シジミチョウ	ハヤシミドリシジミ				VU	
	シジミチョウ	ウラクロシジミ				NT2	
	シジミチョウ	ミドリシジミ				NT1	
	シジミチョウ	クロシジミ			EN	EX	
	シジミチョウ	ヒメシジミ本州・九州亜種			NT	CR	
	シジミチョウ	ミヤマシジミ			EN	CR	
	シジミチョウ	アサマシジミ中部低地帯亜種			EN	EX	
	シジミチョウ	ゴイシシジミ				NT2	
	シジミチョウ	シルビアシジミ			EN	EX	
	タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン			VU	VU (NT2)	
	タテハチョウ	オオウラギンスジヒョウモン				NT2	
	タテハチョウ	メスグロヒョウモン				NT2	
	タテハチョウ	ウラギンヒョウモン				NT2	
	タテハチョウ	クジャクチョウ				NT2	
	タテハチョウ	アサマイチモンジ				NT2	
	タテハチョウ	ジャノメチョウ				NT2 (NT1)	
	タテハチョウ	クモガタヒョウモン				NT2	
	タテハチョウ	オオミスジ				NT1 (EX)	
	タテハチョウ	ホシミスジ東北・中部地方亜種				NT1	
	タテハチョウ	ヒオドシチョウ				VU	
	タテハチョウ	オオムラサキ			NT	VU (NT1)	
	シロチョウ	ツマグロキチョウ			EN	EN	
	シロチョウ	スジボソヤマキチョウ				VU	
	シャクガ	クワトゲエダシャク			NT	DD	
	イボタガ	イボタガ				RT (EN)	
	ヤママユガ	オナガミズアオ本土亜種			NT	RT (NT1)	
	ヤママユガ	ヤママユ本土亜種				RT (NT2)	
	シャチホコガ	ヘリスジシャチホコ				NT2	
	ヤガ	コシロシタバ			NT		
ヤガ	キシタアツバ			NT			
ハルカ	ハマダラハルカ			DD	NT1		
ミズアブ	Ptecticus sinchangensis				NT2		
ツリアブ	タイワンハラボソツリアブ				NT2		
ハナアブ	ヒサマツハチモドキハナアブ				NT2		
ハナアブ	コブアリノスアブ				NT2		
ハナアブ	シロスジナガハナアブ				NT2		

表 5.2.5-3(3) 計画地周辺で確認された貴重な動物

分類群	科名	種名	選定基準				
			①	②	③	④	⑤
昆虫類	デガシラバエ	コマダラハチモドキバエ				NT2	
	オサムシ	セアカオサムシ			NT	NT1	
	オサムシ	ヒトツメアオゴミムシ			NT	NT2	
	オサムシ	オサムシモドキ				EN	
	オサムシ	チョウセンゴモクムシ			VU	VU	
	オサムシ	キベリマルクビゴミムシ			EN	CR	
	オサムシ	フタモンマルクビゴミムシ			EN	CR	
	オサムシ	オオトックリゴミムシ			NT	VU	
	ハンミョウ	カワラハンミョウ			EN	EX	
	ハンミョウ	ホソハンミョウ			VU	NT1	
	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ			VU	CR	
	ゲンゴロウ	シマゲンゴロウ			NT	NT1	
	ゲンゴロウ	オオイチモンジシマゲンゴロウ			EN	VU	
	ゲンゴロウ	キベリマメゲンゴロウ			NT		
	ミズスマシ	ミズスマシ			VU	CR	
	ミズスマシ	コオナガミズスマシ			VU	NT1	
	カワラゴミムシ	カワラゴミムシ				EN	
	ガムシ	コガムシ			DD		
	ガムシ	ガムシ			NT	CR	
	ガムシ	シジミガムシ			EN	DD	
	シデムシ	ヤマトモンシデムシ			NT	NT1	
	ハネカクシ	フジヤマダルマアリツカムシ				NT1	
	クワガタムシ	ネプトクワガタ本土亜種				VU	
	アカマダラセンチョコガネ	アカマダラセンチョコガネ				DD	
	コガネムシ	アカマダラハナムグリ			DD	NT1	
	コガネムシ	オオキイロコガネ				NT1	
	ヒラタドロムシ	マスダチビヒラタドロムシ				NT1	
	タマムシ	ウバタマムシ				NT2	
	タマムシ	アオマダラタマムシ				NT2	
	ホタル	ゲンジボタル				VU	
	ホタル	ヘイケボタル				NT1	
	テントウムシ	アイヌテントウ				NT2	
	カミキリムシ	シロスジカミキリ				NT2	
	カミキリムシ	ベニバハナカミキリ				NT2	
	カミキリムシ	クスベニカミキリ				NT2	
	カミキリムシ	アオカミキリ				NT1	
	カミキリムシ	ヨツボシカミキリ			EN	EN	
	カミキリムシ	トラフカミキリ				NT2	
	ハムシ	オオルリハムシ			NT	VU	
	ハムシ	イネネクイハムシ				NT2	
	コンボウハバチ	ホシアシブトハバチ			DD		
	ヤドリキバチ	トサヤドリキバチ			DD		
	ヒメバチ	ミズバチ			DD		
	アシブトコバチ	ナンブアシブトコバチ				CR	
	セイボウ	オオツヤセイボウ			NT	CR	
	セイボウ	オオセイボウ			DD		
	アリ	テラニシクサアリ			NT		
	アリ	トゲアリ			VU		
	スズメバチ	オオハムシドロバチ			DD	CR	
	スズメバチ	クチビロハムシドロバチ				NT2	
スズメバチ	モンズズメバチ			DD			
クモバチ	アケボノクモバチ			DD			
クモバチ	フタモンクモバチ			NT			
ギングチバチ	キュビギングチ			DD	EN		
ギングチバチ	オタネギングチ				NT2		
ギングチバチ	ヤノギングチ				EN		
ギングチバチ	オオギングチ				VU		

表 5.2.5-3(4) 計画地周辺で確認された貴重な動物

分類群	科名	種名	選定基準				
			①	②	③	④	⑤
昆虫類	ギングチバチ	ササキリギングチ			NT	EN	
	ギングチバチ	アカオビケラトリバチ			NT	EX	
	ギングチバチ	サクラトゲアナバチ				EX	
	ギングチバチ	コシジロギングチ				NT2	
	ギングチバチ	ナンブジガバチモドキ				NT2	
	ギングチバチ	サップロジガバチモドキ				NT1	
	ドロバチモドキ	ムネアカツヤアナバチ				NT1	
	ドロバチモドキ	ニッポントゲアワフキバチ			DD	EN	
	ドロバチモドキ	ヤマトスナハキバチ本土亜種			DD		
	アナバチ	フジジガバチ			NT	EX	
	ミツバチ	クロマルハナバチ			NT	DD	
	ミツバチ	ナミルリモンハナバチ			DD		
	ハキリバチ	フルカワフトハキリバチ			DD	VU	
	ハキリバチ	クズハキリバチ			DD		
	コマユバチ	ウmanoバチ			NT		
	魚類	ウナギ	ニホンウナギ			EN	NT2
コイ		ゲンゴロウブナ			EN		
コイ		キンブナ			VU	VU	
コイ		タナゴ			EN	EX	
コイ		ゼニタナゴ			CR	EX	
コイ		ワタカ			CR		
コイ		ハス			VU		
コイ		カワヒガイ			NT		
コイ		ゼゼラ			VU		
コイ		ツチフキ			EN		
ドジョウ		ドジョウ			NT		
フクドジョウ		ホトケドジョウ			EN	CR	
ギギ		ギバチ			VU		
キュウリウオ		ワカサギ				NT1	
サケ		ニッコウイワナ			DD	VU	
サケ		サクラマス(ヤマメ)			NT	VU	
トゲウオ		ムサシトミヨ			CR	CR	希少
メダカ		ミナミメダカ			VU	NT2	
カジカ		カジカ			NT		
鳥類		キジ	ウズラ			VU	繁 CR,越 CR
	カモ	オオハクチョウ				越 CR	
	カイツブリ	ハジロカイツブリ				越 NT1	
	ハト	シラコバト	国天		EN	繁 EN,越 EN	
	サギ	ササゴイ				繁 EN	
	サギ	アマサギ				繁 LP	
	サギ	チュウサギ			NT	繁 VU	
	サギ	コサギ				繁 NT2	
	クイナ	バン				繁 NT2 (VU)	
	カッコウ	ツツドリ				繁 LP	
	カッコウ	カッコウ				繁 NT2	
	チドリ	イカルチドリ				繁 NT1	
	チドリ	シロチドリ			VU	繁 LP	
	シギ	タカブシギ			VU		
	シギ	イソシギ				繁 VU (NT2)	
	シギ	ハマシギ			NT		
	タマシギ	タマシギ			VU	繁 CR,越 CR	
	カモメ	コアジサシ			VU	繁 CR	
	ミサゴ	ミサゴ			NT		
	タカ	トビ				繁 DD	
	タカ	ツミ				繁 NT2	
	タカ	ハイタカ			NT	繁 DD,越 NT2	
	タカ	サシバ			VU	繁 CR	
	ハヤブサ	チョウゲンボウ				繁 NT2 (VU)	

表 5.2.5-3(5) 計画地周辺で確認された貴重な動物

分類群	科名	種名	選定基準				
			①	②	③	④	⑤
鳥類	フクロウ	フクロウ				繁 RT,越 NT2 (繁 VU)	
	フクロウ	アオバズク				繁 NT2	
	カワセミ	アカショウビン				繁 CR (EX)	
	キツツキ	アリスイ				越 NT2	
	サンショウクイ	サンショウクイ			VU	繁 EN (CR)	
	シジュウカラ	ヤマガラ				繁 RT (NT2)	
	シジュウカラ	ヒガラ				繁 RT (VU)	
	ムシクイ	エゾムシクイ				繁 NT2	
	ムシクイ	センダイムシクイ				繁 NT2 (CR)	
	ヨシキリ	オオヨシキリ				繁 NT2	
	ムクドリ	コムクドリ				繁 DD	
	ヒタキ	トラツグミ				繁 NT2 (VU)	
	ヒタキ	アカハラ				繁 NT2	
	ホオジロ	ホオジロ				繁 RT (NT2)	
	ホオジロ	ミヤマホオジロ				越 NT1	
ホオジロ	ノゾコ			NT			
ホオジロ	アオジ				繁 DD		
両生類	サンショウウオ	トウキョウサンショウウオ		国内	VU	EN	
	イモリ	アカハライモリ			NT	CR	希少
	ヒキガエル	アズマヒキガエル				NT1 (VU)	
	アカガエル	ニホンアカガエル				VU	
	アカガエル	ヤマアカガエル				NT2 (NT1)	
	アカガエル	トノサマガエル			NT		
	アカガエル	ツチガエル				EN (VU)	
	アオガエル	シュレーゲルアオガエル				NT2	
	アオガエル	カジカガエル				NT1	
爬虫類	トカゲ	ヒガシニホントカゲ				NT2	
	ナミヘビ	シマヘビ				VU (EN)	
	ナミヘビ	アオダイショウ				NT2	
	ナミヘビ	ジムグリ				NT1	
	ナミヘビ	シロマダラ				VU	
	ナミヘビ	ヒバカリ				NT1 (NT2)	
	ナミヘビ	ヤマカガシ				NT1 (NT2)	
	クサリヘビ	ニホンマムシ				NT2	
哺乳類	ヒナコウモリ	テングコウモリ				NT1	
	リス	ホンドモモンガ				NT1	
合 計		268 種	1 種	1 種	102 種	235 種	2 種

注) 1. 種名、科の配列等は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和元年度版生物リスト(令和 2 年)」に従い、一部新たな知見を加えて整理した。

2. ①～⑤は、表 5.2.5-2 と対応する。④は全県評価を記載し、地帯別評価「台地・丘陵地」が全県評価と異なる場合はカッコ内に示した。全県評価が RT であり台地丘陵で該当ランクが無いものは除外した。

3. 鳥類の選定基準④について、「繁」は「繁殖鳥」、「越」は「越冬鳥」を表す。





出典:「埼玉県動物誌」(昭和 53 年 3 月、埼玉県教育委員会)

「埼玉県昆虫誌 I, III」(平成 10 年、埼玉昆虫談話会)及び「埼玉県昆虫誌 II」(平成 9 年、埼玉昆虫談話会)

「河川水辺の国勢調査」(国土交通省河川環境データベース)



凡例

-  : 計画地
-  : 市町界
-  : 計画地から3km範囲
-  : 確認位置

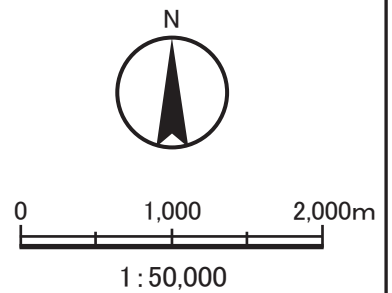


図5.2.5-1 貴重な動物の分布状況

(2) 植 物

① 植生の状況

埼玉県深谷市に位置する計画地は、「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」(平成 24 年 3 月、埼玉県環境部自然環境課、以下、「県 RDB(植物編)」とする。)によると、地帯区分は「台地・丘陵地」に位置しており、標高 50m～200m となっている。

計画地及び周辺の現存植生は、図 5.2.5-2 に示すとおりである。計画地は「工場地帯」及び隣接する「路傍・空地雑草群落」であり、周囲には「水田雑草群落」「スギ・ヒノキ・サワラ植林」「クスギ・コナラ群集」などが分布している。計画地から北側約 1,500m には荒川本流が流れている。計画地の西側には荒川の支流にあたる吉野川が流れており、水系に沿って「水田雑草群落」が広がっている。計画地の南側には、「畑雑草群落」や「果樹園」がみられる。計画地の東側では「ゴルフ場・芝地」及び「アカマツ植林」が広がっている。

計画地から 3km 範囲における植生の面積及び割合は、表 5.2.5-4 に示すとおりである。

土地利用に含まれる畑地等(44.3%)、その他(30.0%)の割合が高く、植物群落に含まれる樹林(24.1%)、草地(1.6%)の割合は低い状況となっている。

表 5.2.5-4 確認された植生と面積割合

区分	相観植生	植生基本分類	植物群落(環境省)	計画地から 3km 範囲			
				相関植生		植生基本分類	
				面積(km ²)	割合	面積(km ²)	割合
植物群落	草地	多年生広葉草本群落	伐採跡地群落(VII)	0.48	1.6%	0.009	0.0%
		単子葉草本群落	オギ群集			0.468	1.5%
	樹林	ヤナギ低木林	ヤナギ低木群落(VI)	7.28	24.1%	0.155	0.5%
		落葉広葉樹林	クリ-コナラ群集、クスギ-コナラ群集、ニセアカシア群落			2.780	9.2%
		常緑針葉樹林	ヤマツツジ-アカマツ群集、シキミーモミ群集			0.277	0.9%
		植林地(竹林)	モウソウチク林			0.0001	0.0%
		植林地(スギ・ヒノキ)	スギ・ヒノキ・サワラ植林			3.186	10.6%
植林地(その他)	アカマツ植林	0.879	2.9%				
土地利用	畑地等	果樹園	果樹園	13.35	44.3%	2.842	9.4%
		畑	畑雑草群落			5.052	16.7%
		水田	水田雑草群落、放棄水田雑草群落			5.460	18.1%
	その他	人工草地	牧草地	9.06	30.0%	0.053	0.2%
		グラウンドなど	ゴルフ場・芝地、造成地、路傍・空地雑草群落			1.932	6.4%
		人口構造物	工場地帯、市街地、緑の多い住宅地			5.999	19.9%
		自然裸地	自然裸地			0.433	1.4%
	開放水面	開放水域			0.644	2.1%	
合計				30.17	100%	30.17	100%

② 植物相の状況

「埼玉県植物誌」(1998年、埼玉県教育委員会)によると、深谷市及びその周辺に確認記録がある植物は、60目167科1666種である。「河川水辺の国勢調査」(2010年及び2018年、国土交通省)によると、深谷市及びその周辺に確認記録がある植物は、48目119科729種である。

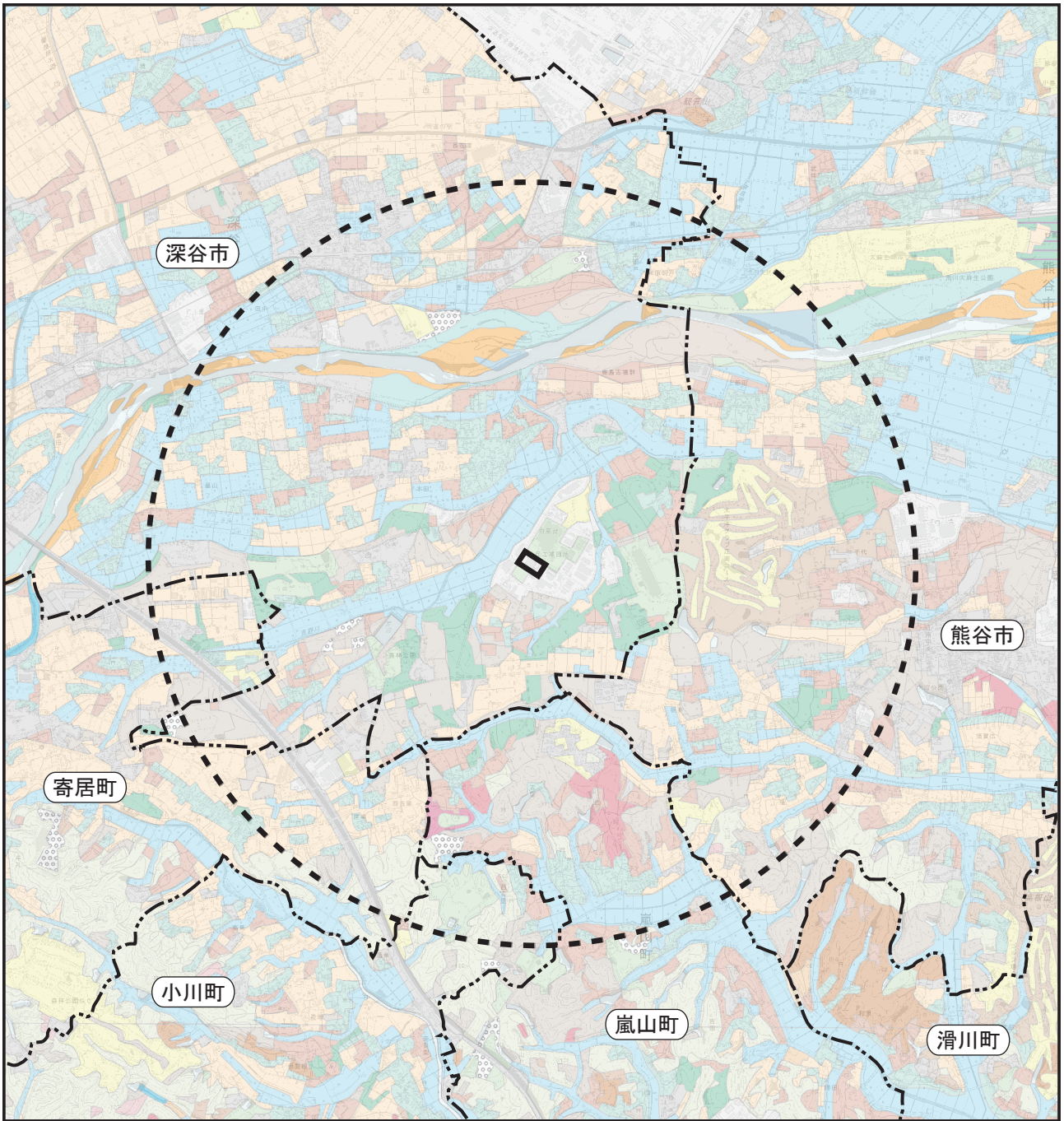
各文献における分類群別の確認科数及び種数は、表5.2.5-5に示すとおりである。

表 5.2.5-5 確認された植物の分類群別科数・種数




分類群		埼玉県植物誌			河川水辺の国勢調査		
		目数	科数	種数	目数	科数	種数
シダ植物		13	25	151	4	11	42
被子植物	裸子植物	1	3	9	2	4	6
	被子植物	46	139	1506	42	104	681
合計		60	167	1666	48	119	729

出典:「埼玉県植物誌」(1998年、埼玉県教育委員会)

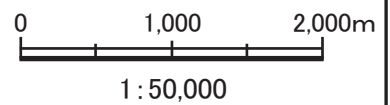
「河川水辺の国勢調査」(2010年及び2018年、国土交通省)



凡例

-  : 計画地
-  : 市町界
-  : 計画地から3km範囲

-  シキミ・モミ群集
-  ヤナギ低木群落(VI)
-  ケヤキ・シラカシ群落
-  クリ・コナラ群集
-  クヌギ・コナラ群集
-  アカシデ・イヌシデ群落(VII)
-  アカマツ群落(VII)
-  ヤマツツジ・アカマツ群集
-  伐採跡地群落(VII)
-  ヨシクラス
-  オギ群集
-  スギ・ヒノキ・サワラ植林
-  アカマツ植林
-  ニセアカシア群落
-  モウソウチク林
-  ゴルフ場・芝地
-  牧草地
-  路傍・空地雑草群落
-  果樹園
-  畑雑草群落
-  水田雑草群落
-  放棄水田雑草群落
-  市街地
-  緑の多い住宅地
-  工場地帯
-  造成地
-  開放水域
-  自然裸地
-  その他植林
-  残存・植栽樹群地
-  放棄畑雑草群落



出典:第6回・第7回自然環境保全基礎調査植生調査 1/25,000植生図(自然環境調査Web-GIS)

図5.2.5-2 植生図

③ 貴重な植物の分布状態

「埼玉県植物誌」(1998年、埼玉県教育委員会)及び「河川水辺の国勢調査」(2010年及び2018年、国土交通省)によって確認された植物のうち、表5.2.5-6の貴重な植物の選定基準に該当する種を表5.2.5-7に示す。このうち、環境省レッドリストの絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定されている種では、オニカナワラビ、トダスゲ、オンタケブシ、ウラジロヒカゲツツジ、マメダオシの5種が確認され、県RDB(植物編)で絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定されている種では、タマノカンアオイ、クマガイソウ、オキナグサ、サワトラノオ、キキョウなど合計43種が確認されている。また、埼玉県希少野生動植物種に指定されている種では、タマノカンアオイ、ムギラン、ムカデラン、トキソウ、トダスゲ、サワトラノオ、キタミソウの7種が確認されている。

また、県RDB(植物編)によると、埼玉県の希少な植物群落のうち深谷市に分布するものとして、河原、礫原群落の「カワラサイコ群落」、「カワラニガナ群落」、「カワラヨモギ群落」、枕水植物群落の「クロモ群落」があげられている。

表 5.2.5-6 貴重な植物種の選定基準

文献及び法律名		選定基準となる区分
①	<ul style="list-style-type: none"> ・「文化財保護法」 (昭和25年5月、法律第214号) ・「埼玉県文化財保護条例」 (昭和30年10月1日、条例第46号) ・「深谷市文化財保護条例」 (平成18年1月1日、条例第122号) 	特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：県指定天然記念物 市天：市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成4年6月、法律第75号)	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト2020」 (令和2年3月、環境省)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
④	「埼玉県レッドデータブック2011 植物編」 (平成24年3月、埼玉県)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
⑤	「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」 (平成12年3月24日、条例第11号)	希少：県内希少野生動植物種

表 5.2.5-7 計画地周辺で確認された貴重な植物 (1)

科名	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
ミズニラ	ミズニラ			NT	VU	
イワヒバ	カタヒバ				NT	
イワヒバ	イワヒバ				NT	
トクサ	イヌスギナ				NT	
マツバラシ	マツバラシ			NT	CR	
ハナヤスリ	アカハナワラビ				NT	
ハナヤスリ	ナツノハナワラビ				NT	
ハナヤスリ	コヒロハハナヤスリ				VU	
ゼンマイ	ヤシヤゼンマイ				VU	
コケシノブ	アオホラゴケ				VU	
コケシノブ	ハイホラゴケ				VU	
ウラジロ	ウラジロ				NT	
サンショウモ	オオアカウキクサ			EN	EX	
サンショウモ	サンショウモ			VU	EN	
キジノオンダ	オオキジノオ				CR	
イノモトソウ	ミズワラビ				NT	
イノモトソウ	ヒメウラジロ			VU	VU	
イノモトソウ	ミヤマウラジロ				NT	
イノモトソウ	シシラン				NT	
コバノイシカグマ	コバノイシカグマ				NT	
ナヨシダ	ウスヒメワラビ				NT	
ナヨシダ	イワウサギシダ				VU	
チャセンシダ	クモノスシダ				NT	
メシダ	オオヒメワラビ				NT	
メシダ	ミドリワラビ				EN	
オンダ	オニカナワラビ			CR	EN	
オンダ	ホソバカナワラビ				CR	
オンダ	シノブカグマ				NT	
オンダ	キヨスミヒメワラビ				NT	
オンダ	マルバベニシダ				NT	
オンダ	サクライカグマ				VU	
オンダ	ヌカイタチシダ				EN	
オンダ	ギフベニシダ				DD	
オンダ	チャボイノデ				EN	
オンダ	サイゴクイノデ				VU	
オンダ	オオキヨズミシダ				EN	
オンダ	ヒメカナワラビ				EN	
スイレン	コウホネ				NT	
マツブサ	チョウセンゴミシ				EN	
ドクダミ	ハンゲショウ				VU	
ウマノスズクサ	カンアオイ				NT	
ウマノスズクサ	ウスバサイシン				NT	
ウマノスズクサ	タマノカンアオイ			VU	CR	希少
サトイモ	ヒロハテンナンショウ				EN	
サトイモ	ウラシマソウ				NT	
サトイモ	ヒメザゼンソウ				EN	
サトイモ	ザゼンソウ				EN	
オモダカ	ヘラオモダカ				NT	
オモダカ	サジオモダカ				EN	
オモダカ	マルバオモダカ			VU	EX	
オモダカ	アギナシ			NT	CR	
オモダカ	ウリカワ				NT	
トチカガミ	クロモ				EN	

表 5.2.5-7 計画地周辺で確認された貴重な植物 (2)

科名	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
トチカガミ	トチカガミ			NT	VU	
トチカガミ	ホッソモ				DD	
トチカガミ	トリゲモ			VU	EN	
トチカガミ	ミズオオバコ			VU	VU	
トチカガミ	セキショウモ				NT	
ヒルムシロ	イトモ			NT	VU	
ヒルムシロ	エビモ				NT	
ヒルムシロ	ヒルムシロ				NT	
ヒルムシロ	ヤナギモ				NT	
ヒルムシロ	ササバモ				NT	
キンコウカ	ノギラン				NT	
ユリ	アマナ				NT	
ユリ	ヒロハノアマナ			VU	EN	
ユリ	カタクリ				NT	
ユリ	キバナノアマナ				NT	
ユリ	ホトトギス				VU	
ユリ	ヤマホトトギス				EN	
ラン	シラン			NT	EN	
ラン	ムギラン			NT	CR	希少
ラン	エビネ			NT	EN	
ラン	ギンラン				VU	
ラン	キンラン			VU	EN	
ラン	ササバギンラン				NT	
ラン	サイハイラン				NT	
ラン	シュンラン				NT	
ラン	マヤラン			VU	DD	
ラン	クマガイソウ			VU	CR	
ラン	セッコク				EN	
ラン	カキラン				EX	
ラン	オニノヤガラ				VU	
ラン	クモキリソウ				NT	
ラン	ヒメムヨウラン			VU	CR	
ラン	ミヤマフタバラン				VU	
ラン	ハクウンラン				EN	
ラン	ムカデラン			VU	CR	希少
ラン	ツレサギソウ				VU	
ラン	ノヤマトンボ				NT	
ラン	トキソウ			NT	CR	希少
ラン	クモラン				CR	
ラン	カヤラン				NT	
アヤメ	ノハナショウブ				VU	
アヤメ	カキツバタ			NT	CR	
アヤメ	アヤメ				NT	
ヒガンバナ	ステゴビル			VU	EN	
ヒガンバナ	ヒメニラ				NT	
ヒガンバナ	ヤマラッキョウ				VU	
ヒガンバナ	キツネノカミソリ				NT	
クサスギカズラ	キジカクシ				NT	
クサスギカズラ	ワニグチソウ				NT	
ミズアオイ	ミズアオイ			NT	CR	
ガマ	ミクリ(広義)				NT	
ガマ	ヤマトミクリ			NT	EN	
ガマ	ナガエミクリ			NT	VU	

表 5.2.5-7 計画地周辺で確認された貴重な植物 (3)

科名	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
ホシクサ	ヒロハノイヌノヒゲ(広義)				VU	
ホシクサ	ホシクサ				EN	
ホシクサ	イトイヌノヒゲ				EN	
ホシクサ	イヌノヒゲ				EN	
ホシクサ	ニッポシイヌノヒゲ				EN	
カヤツリグサ	トダスゲ			CR	CR	希少
カヤツリグサ	アワボスゲ				VU	
カヤツリグサ	ジョウロウスゲ			VU	CR	
カヤツリグサ	ヌマアゼスゲ			VU	CR	
カヤツリグサ	サナギスゲ				VU	
カヤツリグサ	ヤマアゼスゲ				NT	
カヤツリグサ	ウマスゲ				NT	
カヤツリグサ	アズマスゲ				NT	
カヤツリグサ	ヒエスゲ				EN	
カヤツリグサ	ヒメシラスゲ				VU	
カヤツリグサ	ヤチカワズスゲ				EX	
カヤツリグサ	ヒメゴウソ				NT	
カヤツリグサ	タカネマスクサ				NT	
カヤツリグサ	カンエンガヤツリ			VU	VU	
カヤツリグサ	シロガヤツリ				VU	
カヤツリグサ	ヒメガヤツリ				VU	
カヤツリグサ	スジヌマハリイ			VU	CR	
カヤツリグサ	コツブヌマハリイ			VU	CR	
カヤツリグサ	ノテンツキ				EN	
カヤツリグサ	アゼテンツキ				EN	
カヤツリグサ	コイヌノハナヒゲ				DD	
カヤツリグサ	ヒメホタルイ				VU	
カヤツリグサ	コマツカサススキ				EN	
カヤツリグサ	マツカサススキ				NT	
イネ	ヒメコヌカグサ			NT	VU	
イネ	セトガヤ				NT	
イネ	ヒメアブラススキ				NT	
イネ	カリマタガヤ				VU	
イネ	ミズタカモジ				EN	
イネ	ムツオレグサ				NT	
イネ	ヒメウキガヤ				VU	
イネ	アズマガヤ				NT	
イネ	キダチノネズミガヤ				NT	
イネ	ウキシバ				VU	
イネ	ウシクサ				NT	
イネ	ヒゲシバ				NT	
マツモ	マツモ				VU	
ケシ	ヤマブキソウ				NT	
ツヅラフジ	コウモリカズラ				NT	
ツヅラフジ	ツヅラフジ				VU	
メギ	イカリソウ				NT	
キンポウゲ	レイジンソウ				EN	
キンポウゲ	オンタケブシ			CR		
キンポウゲ	フクジュソウ				NT	
キンポウゲ	イチリンソウ				NT	
キンポウゲ	カザグルマ			NT	EN	
キンポウゲ	トウゴクサバノオ				NT	
キンポウゲ	セツブンソウ			NT	NT	

表 5.2.5-7 計画地周辺で確認された貴重な植物 (4)

科名	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
キンポウゲ	オキナグサ			VU	CR	
キンポウゲ	ヒキノカサ			VU	CR	
キンポウゲ	カラマツソウ				EN	
キンポウゲ	ハルカラマツ			VU		
ボタン	ヤマシャクヤク			NT	VU	
ユキノシタ	ネコノメソウ				NT	
ベンケイソウ	ミツバベンケイソウ				VU	
ベンケイソウ	ツメレンゲ			NT	EN	
タコノアシ	タコノアシ			NT	VU	
アリノトウグサ	フサモ				NT	
マメ	タヌキマメ				CR	
マメ	イヌハギ			VU	VU	
バラ	チョウセンキンミズヒキ			VU	EN	
バラ	オオズミ				DD	
バラ	カワラサイコ				VU	
バラ	ナガボノワレモコウ				NT	
クロウメモドキ	ミヤマクマヤナギ				VU	
イラクサ	トキホコリ			VU	VU	
ブナ	アカガシ				NT	
カバノキ	ヤエガワカンバ			NT	VU	
ウリ	ゴキヅル				VU	
カタバミ	コミヤマカタバミ				VU	
カタバミ	カントウミヤマカタバミ				EN	
オトギリソウ	トモエソウ				VU	
オトギリソウ	イワオトギリ				VU	
オトギリソウ	シナノオトギリ				VU	
オトギリソウ	ミズオトギリ				EN	
スマレ	エゾノタチツボスミレ				VU	
スマレ	アケボノスミレ				NT	
スマレ	マキノスミレ				VU	
トウダイグサ	ヤマアイ				CR	
フウロソウ	グンナイフウロ				CR	
ミソハギ	ヒメミソハギ				NT	
ミソハギ	エゾミソハギ				EN	
ミソハギ	ミズマツバ			VU	VU	
ミソハギ	ミズキカシグサ			VU		
ミソハギ	ヒメビシ			VU	EN	
ミソハギ	ヒシ				NT	
アカバナ	ウスゲチョウジタデ			NT	VU	
アカバナ	ミズユキノシタ				CR	
ミカン	フユザンショウ				NT	
ジンチョウゲ	オニシバリ				EN	
ジンチョウゲ	チョウセンナニワズ			VU	CR	
アブラナ	ミズタガラシ				EN	
アブラナ	コイスガラシ			NT	NT	
アブラナ	ハタザオ				VU	
オオバヤドリギ	マツグミ				EN	
タデ	ヒメタデ			VU	EN	
タデ	ナガバノウナギツカミ			NT	EX	
タデ	シロバナサクラタデ				NT	
タデ	ヌカボタデ			VU	EN	
タデ	ホソバイヌタデ			NT	EN	
タデ	コギシギシ			VU	VU	

表 5.2.5-7 計画地周辺で確認された貴重な植物 (5)

科名	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
モウセンゴケ	モウセンゴケ				CR	
ナデシコ	カワラナデシコ				VU	
ナデシコ	フシグロセンノウ				NT	
ナデシコ	ワダソウ				NT	
ナデシコ	ヒゲネワチガイソウ				NT	
ナデシコ	ナンバンハコベ				NT	
ヒユ	カワラアカザ				EN	
ヤマゴボウ	マルミノヤマゴボウ				EN	
サクラソウ	ノジトラノオ			VU	EN	
サクラソウ	ヌマトラノオ				NT	
サクラソウ	サワトラノオ			EN	CR	希少
サクラソウ	クサレダマ				CR	
サクラソウ	クリンソウ				EN	
ツツジ	ウメガサソウ				VU	
ツツジ	シャクジョウソウ				NT	
ツツジ	ヒカゲツツジ				VU	
ツツジ	ウラジロヒカゲツツジ			CR	CR	
ツツジ	レンゲツツジ				VU	
ツツジ	アカヤシオ				VU	
ツツジ	オオヤマツツジ				EN	
アカネ	キクムグラ				NT	
アカネ	ハナムグラ			VU	EN	
アカネ	ホソバノヨツバムグラ				NT	
リンドウ	コケリンドウ				EN	
リンドウ	センブリ				VU	
マチン	ヒメナエ			VU	CR	
キョウチクトウ	チョウジソウ			NT	EN	
キョウチクトウ	クサタチバナ			NT	EN	
キョウチクトウ	コカモメヅル				NT	
キョウチクトウ	ツルガシワ				EN	
キョウチクトウ	タチガシワ				NT	
キョウチクトウ	スズサイコ			NT	EN	
ムラサキ	オオルリソウ				NT	
ムラサキ	ホタルカズラ				VU	
ムラサキ	ヤマルリソウ				VU	
ムラサキ	ツルカメバソウ			EN	CR	
ヒルガオ	マメダオシ			CR	EN	
ナス	アオホオズキ			VU	EN	
オオバコ	アブノメ				NT	
オオバコ	オオアブノメ			VU	EN	
オオバコ	キクモ				NT	
オオバコ	イヌノフグリ			VU	NT	
オオバコ	ヒメトラノオ				CR	
オオバコ	カワヂシャ			NT	VU	
ゴマノハグサ	キタミソウ			VU	EN	希少
アゼナ	スズメノトウガラシ				EN	
キツネノマゴ	ハグロソウ				NT	
タヌキモ	ホザキノミミカキグサ				EX	
タヌキモ	タヌキモ			NT	CR	
タヌキモ	ムラサキミミカキグサ			NT	EX	
クマツヅラ	クマツヅラ				VU	
シソ	キセワタ			VU	EN	
シソ	ヒメハッカ			NT	EN	

表 5.2.5-7 計画地周辺で確認された貴重な植物 (6)

科名	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
シソ	ヤマジソ			NT	VU	
シソ	ミゾコウジュ			NT	NT	
シソ	オカタツナミソウ				NT	
シソ	シソバタツナミ				NT	
シソ	トウゴクシソバタツナミ				NT	
シソ	カリガネソウ				EN	
ハエドクソウ	スズメノハコベ			VU	CR	
ハマウツボ	ナンバンギセル				VU	
ハマウツボ	ミヤマママコナ				NT	
ハマウツボ	ママコナ				NT	
ハマウツボ	クチナシグサ				NT	
ハマウツボ	ヒキヨモギ				NT	
ハマウツボ	オオヒキヨモギ			VU	EN	
キキョウ	サワギキョウ				CR	
キキョウ	キキョウ			VU	CR	
ミツガシワ	ヒメシロアサザ			VU	EN	
ミツガシワ	ガガブタ			NT	CR	
ミツガシワ	アサザ			NT	VU	
キク	カワラハハコ				VU	
キク	カワラヨモギ				VU	
キク	サワシロギク				DD	
キク	タウコギ				NT	
キク	キクタニギク			NT	NT	
キク	フジバカマ			NT	NT	
キク	オグルマ				NT	
キク	ホソバオグルマ			VU	EN	
キク	カセンソウ				NT	
キク	タカサゴソウ			VU	CR	
キク	ノニガナ				NT	
キク	カワラニガナ			NT	VU	
キク	テバコモミジガサ				NT	
キク	ウスユキソウ				NT	
キク	アキノハハコグサ			EN	CR	
キク	ミヤコアザミ				EN	
キク	タカオヒゴタイ				CR	
キク	セイタカトウヒレン				EN	
キク	ハバヤマボクチ				VU	
キク	オカオグルマ				EN	
キク	サワオグルマ				EN	
キク	オナモミ			VU	VU	
ガマズミ	ゴマキ				NT	
スイカズラ	ツルカノコソウ				NT	
セリ	ハナビゼリ				VU	
セリ	エキサイゼリ			NT	CR	
セリ	ホタルサイコ				NT	
セリ	イブキボウフウ				VU	
セリ	ムカゴニンジン				CR	
セリ	ヌマゼリ			VU	CR	
92 科	313 種	0 種	0 種	95 種	310 種	7 種

注) 1. 種名、科の配列等は、「BG Plants 和名－学名インデックス YList」(米倉浩司・梶田忠、2021年5月)に従った。

2. ①～⑤は、表 5.2.5-5 と対応する。

出典:「埼玉県植物誌」(1998年、埼玉県教育委員会)

「河川水辺の国勢調査」(2010年及び2018年、国土交通省)

④ 巨樹・巨木林等の分布状況

「第4回自然環境保全調査 埼玉県自然環境情報図」(平成7年、環境庁)において確認された、計画地及び周辺地域 3km範囲内における巨樹の分布状況を表 5.2.5-8、図 5.2.5-3 に示す。なお、同範囲内において該当する巨木林は確認されなかった。

表 5.2.5-8 計画地周辺の巨樹・巨木林の状況


番号	区分	樹種	幹周(cm)	樹高(m)
1	単木	ケヤキ	520	17
2	単木	ケヤキ	400	20
3	単木	カヤ	452	5

注) 番号は、図 5.2.5-3 に対応する。

出典:「第4回・第6回自然環境保全基礎調査 日本の巨樹・巨木林」(環境省ホームページ、自然環境調査 Web-GIS)



凡例

-  : 計画地
-  : 市町界
-  : 計画地から3km範囲
-  : 巨樹

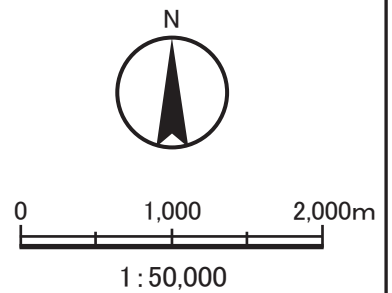


図5.2.5-3 計画地周辺の巨樹・巨木林

(3) 生態系

計画地は埼玉県北、北武蔵台地に位置する。丘陵地の一角で、北西には荒川支流である吉野川と水田地帯、南部は雑木林と畑地、住宅地、東は工場やゴルフ場がみられる。計画地の周辺は、既に川本春日丘工業団地として整備が済んでいる地域である。

計画地及び周辺における生態系の代表的な基礎生産者は、水田雑草群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林であり、これらの環境を反映して一次消費者としてバッタ類やチョウ類などの昆虫類、二次消費者としてドジョウなどの魚類やシジュウカラなどの小鳥類やニホンアカガエルなどのカエル類やカナヘビなどの爬虫類、高次消費者として水田で魚類などを捕食するサギ類や、雑食性のカラス類などの鳥類、ホンドタヌキ、ホンドイタチ等の哺乳類、カエル類を餌とするヘビ類等の生息が推測される。

生態系の上位性種としては、サギ類、カラス等の大型鳥類、ホンドタヌキやイタチ等の哺乳類があげられる。計画地及び周辺における生態系は、水田及び水域を主体に成立していると推測される。

5.2.6 景観、自然とのふれあいの場の状況

(1) 景観

① 地域景観の状況

計画地は、埼玉県北部に位置する深谷市の南部に位置し、深谷市の北部は利根川水系の低地で、南部は秩父山地から流れ出た荒川が扇状台地を形成する平坦な地形となっている。計画地の北側は荒川周辺に水田及び畑地等の耕作地が広がっており、計画地の南側は丘陵地の樹林に耕作地が入り組んだ景観となっている。人工的な要素としては、計画地及び周辺は川本春日丘工業団地となっており、多くの工場が操業している。また計画地の西側に関越自動車道が南北に走り、荒川をはさんで北側には一般国道 140 号・同バイパスが東西に走っている。

計画地周辺の景観資源は、計画地北側一帯に広がる水田及び畑地等の耕作地と、河川沿いの緑地、また、計画地南側の丘陵地といった自然的要素が主体となっている。

② 景観資源の状況

計画地周辺における景観資源の分布状況は、表 5.2.6-1 及び図 5.2.6-1 に示すとおりである。

計画地最寄りの景観資源としては「江南の藤」があり、このほか計画地北側の荒川沿いには、「深谷市白鳥飛来地」や「鹿島古墳群」がみられる。

表 5.2.6-1 計画地周辺の景観資源(自然的・歴史的景観資源)

所在地	名称	概要
深谷市	深谷市白鳥飛来地	川本地区の荒川河川敷で、かつては白鳥への餌付けが行われていた。平成 20 年度に餌付けを廃止し、現在は深谷市及び深谷市観光協会による白鳥飛来地の管理が終了している。その後も、白鳥の飛来地となっている。
	鹿島古墳群	埼玉県指定史跡で、56 基の古墳が史跡の範囲に含まれている。多くが直径 10～20m ほどの小規模な円墳で、6 世紀後半から 8 世紀初頭までに造られた。敷地内には初春のロウバイ、春の桜と菜の花、秋のヒガンバナが植えられており、季節ごとに花のスポットとなっている。
	宝泉寺	「深谷の七福神めぐり」の 1 つ。秋の七草の「キキョウの寺」として知られている。
熊谷市	江南の藤	推定樹齢 140 年、枝張りの規模は県内最大級(35m×15m)のノダナガフジという藤で、4 月下旬から 5 月中旬ごろが花の見頃である。
	大沼公園	昭和 8 年の大沼改修後、沼中の弁天島と朱橋が森の緑と水面に映える景勝の地として整備された公園。
	荒川・押切虫の声	将来に残したい貴重な自然と虫の声を聴くことのできる場所として、荒川河畔の草原が日本の音風景 100 選に認定されている(環境省)。
寄居町	今市のハナダイコン	4 月ごろ今市区の林の中に咲く。木々の隙間から光が差し、紫色の花が一面に咲き、幻想的な光景が広がる。
	春の男衾の風景	春には川沿いの桜が咲き誇り、美しい風景を作り出す。また、秋にはヒガンバナと稲穂の景色も美しい。
	三嶋神社のヤブツバキ	三嶋神社社殿の左側に 3 本のヤブツバキがあり、中央に位置する株は町の天然記念物に指定されている。

出典:「観光・歴史・特産」(深谷市ホームページ)

「ふかやガイドマップ」(平成 26 年 3 月現在、深谷市役所)

「熊谷のみどころ」(熊谷市ホームページ)

「寄居宝ものマップ」(寄居町ホームページ)

③ 主要眺望点の分布状況

計画地を眺望する不特定多数の人に利用される地点は、表 5.2.6-2 及び図 5.2.6-1 に示すとおりである。計画地の北側に、南方が眺望できる三尻観音山がある。なお、その他に計画地周辺には眺望を目的として整備された地点はない。

表 5.2.6-2 計画地周辺の主要眺望点

所在地	名称	概要
熊谷市	三尻観音山	熊谷市指定の名勝。標高 83.3m の独立した山で、眺望もよく、特に南方は視界が開けている。

出典:「熊谷のみどころ」(熊谷市ホームページ)

(2) 自然とのふれあいの場の状況

計画地周辺における自然とのふれあいの場の分布状況は、表 5.2.6-3 及び図 5.2.6-2 に示すとおりである。

関係市町のホームページ、観光ガイドマップやパンフレットでは、公園やハイキングコースが紹介されている。計画地最寄りの公園である白草台運動公園は、スポーツが楽しめる施設となっている。また、熊谷市には、「ふるさと歩道」として「熊谷西部史跡コース」が設定されており、荒川周辺の自然散策を楽しむことができる。

表 5.2.6-3(1) 計画地周辺の主要な自然とのふれあいの場

所在地	名称	概要
深谷市	埼玉県農林公園	農林業の体験や、農林業関係者の研修の場として設置された公園。四季折々の花で公園を彩るとともに、埼玉県で生産されている主要な野菜や果樹等を栽培・展示している。2.2ha の芝生広場や遊歩道があり、春には桜を楽しむことができる。
	川本サングリーンパーク	平成 2 年に埼玉県農林公園の開園と併せて整備された公園。施設内にはパターゴルフ、バーベキューコーナー、親水広場、芝生広場、さくら庭園などがある。
	白草台運動公園	野球場、テニスコートが整備された公園。
	深谷市白鳥飛来地	川本地区の荒川河川敷が、白鳥の飛来地となっている。
	鹿島古墳群	埼玉県指定史跡。敷地内には初春のロウバイ、春の桜と菜の花、秋のヒガンバナが植えられており、季節ごとに花のスポットとなっている。
	畠山重忠史跡公園	ふかや花マップで紹介されている、桜の見どころ。
熊谷市	江南総合公園	スポーツ等を身近に楽しめる公園として、平成 16 年度に開催された国民体育大会の馬術会場跡地を中心に整備された。11.4ha の園内には、野球場、多目的広場、遊具広場、芝生広場等がある。
	熊谷さくら運動公園	昭和 45 年(1970 年)より市民のスポーツ・レクリエーションの活動拠点として整備された総合運動公園。
	荒川大麻生公園	荒川の左岸河川敷に緑豊かなスポーツ・レクリエーションの場として整備された公園。昭和 61 年に「ゴルフ場を含む公園」としてオープンし、総計画面積 175.1ha のうち 166.7ha が開園している。
	大沼公園	沼中の弁天島と朱橋が森の緑と水面に映える景勝の地として整備された公園。憩いの場所や散策地として親しまれ、バードウォッチングのポイントとなっている。
	三尻観音山	熊谷市指定の名勝。カタクリやニッコウキスゲ、つつじなど四季折々の花が楽しめる。

表 5.2.6-3(2) 計画地周辺の主要な自然とのふれあいの場

所在地	名称	概要
熊谷市	荒川・押切虫の声	将来に残したい貴重な自然と虫の声を聴くことのできる場所として、荒川河畔の草原が日本の音風景 100 選に認定されている(環境省)。秋の風物詩を体感できる癒しの空間となっている。
	ふるさと歩道 熊谷西部史跡コース	自然に親しみながら史跡や文化財を訪ねるふるさと歩道のうち、「熊谷西部史跡コース」は、大麻生・三尻地区の寺社や自然を楽しむコースとなっている。歴史散歩コース(7km)、自然散策コース(6km)、両コースを合わせたフルコース(13km)がある。
寄居町	今市のハナダイコン	4 月ごろ今市区の林の中に咲く。木々の隙間から光が差し、紫色の花が一面に咲き、幻想的な光景が広がる。
	春の男衾の風景	春には川沿いの桜が咲き誇り、美しい風景を作り出す。また、秋にはヒガンバナと稲穂の景色も美しい。この地区の高蔵寺、泉立寺、善行寺は、桜のスポットとなっている。
	ふるさと歩道ハイキングコース	よりい桜マップで紹介されているハイキングコース。このうち「男衾コース」は 11.2 kmとなっている。
小川町	小川町ハイキングコース	全 8 コースあるうちの 1 つである「四ツ山城跡(四津山神社)と旧鎌倉街道を訪ねるコース」は、約 7.4km となっている。

出典:「埼玉県農林公園」(公益財団法人埼玉県農林公社ホームページ)

「施設」「観光・歴史・特産」(深谷市ホームページ)

「ふかやガイドマップ」(平成 26 年 3 月現在、深谷市役所)

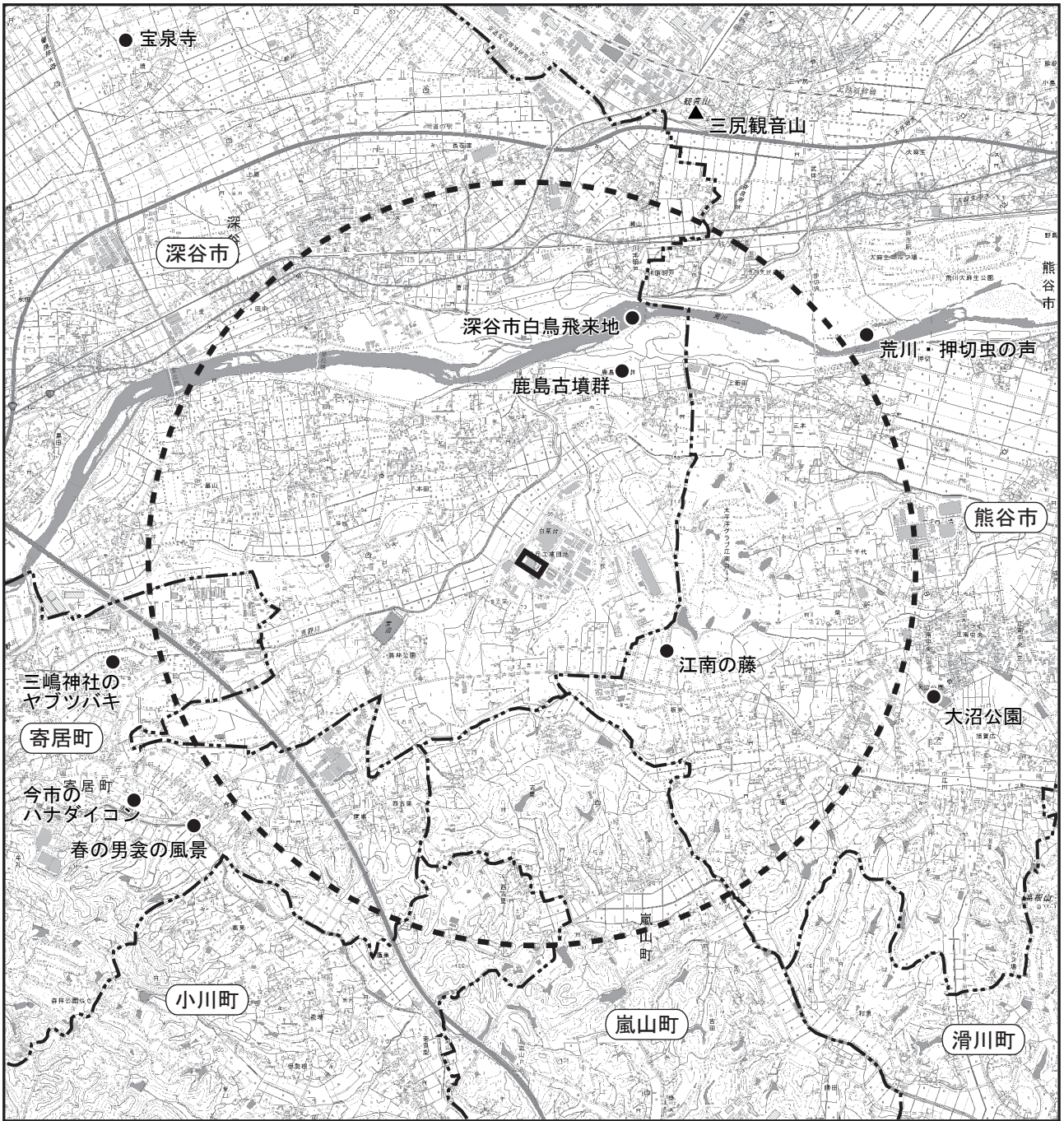
「ふかや花マップ」(一般社団法人深谷市観光協会ホームページ)

「スポーツ・公園」「熊谷のみどころ」(熊谷市ホームページ)

「ふるさと歩道ハイキングコース」(平成 15 年 3 月、熊谷市)

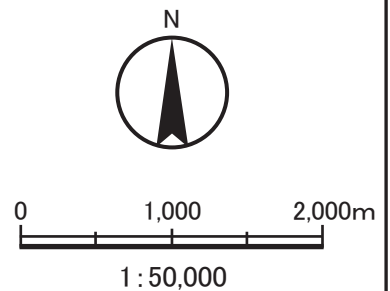
「よりい桜マップ」(寄居町ホームページ)

「おがわまちロードマップ&タウンガイド」(小川町ホームページ)



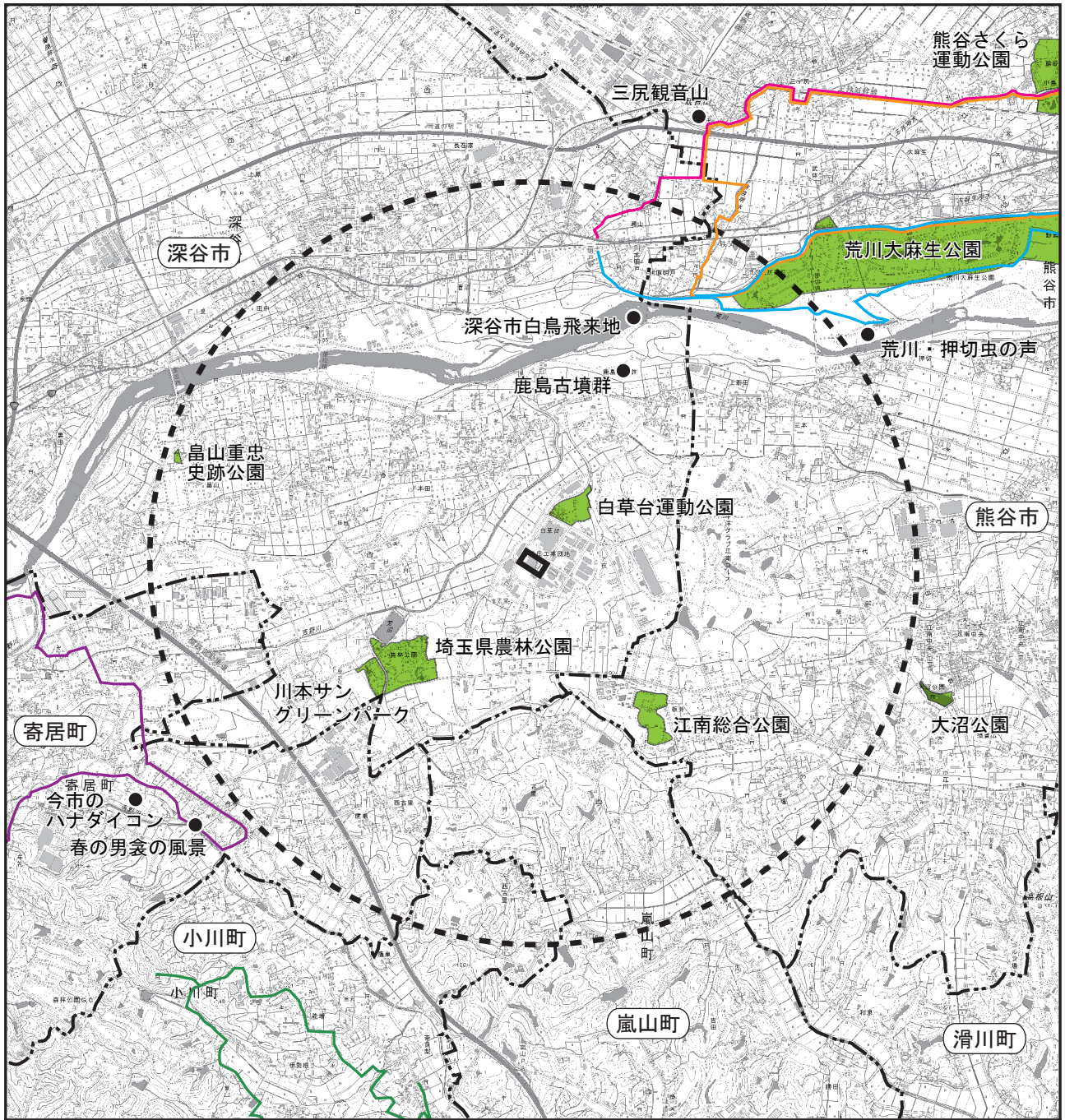
凡例

- : 計画地
- : 市町界
- : 計画地から3km範囲
- : 景観資源
- : 眺望点



出典:「観光・歴史・特産」(深谷市ホームページ)
「ふかやガイドマップ」(平成26年3月1日現在、深谷市役所)
「熊谷のみどころ」(熊谷市ホームページ)
「寄居宝ものマップ」(寄居町ホームページ)

図5.2.6-1 計画地周辺の景観資源(自然的・歴史的景観資源)及び主要眺望点



凡例



: 計画地



: 市町界



: 計画地から3km範囲

■ : 公園

● : 自然とのふれあいの場

【ふるさと歩道 熊谷西部史跡コース】

— : 歴史散策コース

— : 自然散策コース

— : フルコース

【ふるさと歩道 ハイキングコース】

— : 男衾コース

【小川町ハイキングコース】

— : 四ツ山城跡(四津山神社)と旧鎌倉街道を訪ねるコース



0 1,000 2,000m

1:50,000

出典:「埼玉県農林公園」(公益財団法人埼玉県農林公社ホームページ)
「ふかやガイドマップ」(平成26年3月1日現在、深谷市役所)
「スポーツ・公園」「熊谷のみどころ」(熊谷市ホームページ)
「ふるさと歩道ハイキングコース」(平成15年3月、熊谷市)
「よりの桜マップ」(寄居町ホームページ)
「おがわまちロードマップ&タウンガイド」(小川町ホームページ) ほか

図5.2.6-2 計画地周辺の自然とのふれあいの場の状況

5.2.7 文化財その他の生活環境の状況

(1) 指定文化財

計画地周辺の指定文化財は、表 5.2.7-1 及び図 5.2.7-1 に示すとおりである。

計画地周辺には、深谷市指定文化財の「教念寺・鐘楼」、「高札場跡」がある。

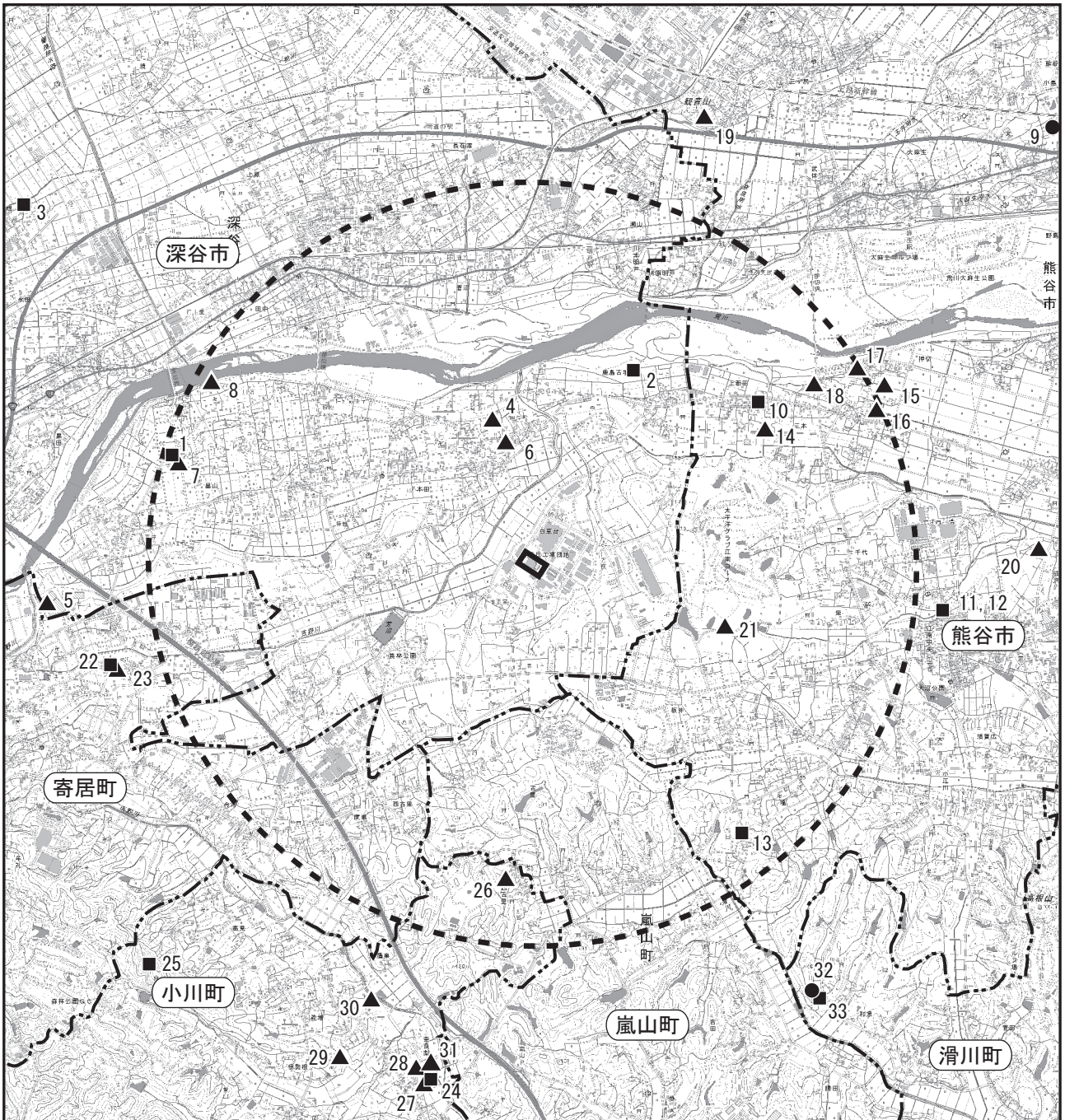
表 5.2.7-1 計画地周辺の指定文化財

市町名	指定	区分	No.	名称	所在地
深谷市	県	史跡	1	畠山重忠墓	畠山 520
			2	鹿島古墳群	本田 191
		旧跡	3	旧北根代官所	北根 260
	市	有形・建造物	4	教念寺・鐘楼	本田 2030
			5	鎌倉街道上道	畠山 1500
		記念物・史跡	6	高札場跡	本田
			7	畠山重能墓	畠山
			8	鶯の瀬	畠山
記念物・名勝	9	宮塚古墳	広瀬 608		
熊谷市	国	記念物	9	宮塚古墳	広瀬 608
	県	有形文化財	10	諏訪神社 本殿	上新田 1032
			11	嘉禄銘板石塔婆	千代 329
		12	寛喜銘板石塔婆	千代 329	
	記念物	13	塩古墳群	塩 647	
	市	有形・建造物	14	柴田家 書院	上新田
			15	正安銘板石塔婆	押切
		考古資料	16	正嘉銘虚空蔵菩薩板石塔婆	押切
			17	寛政銘双体道祖神像	押切 700
		歴史資料	18	享保銘波乗弁財天像	押切 1076
			記念物	19	三尻観音山
20				行人塚古墳	成沢 822
21		寺内古代寺院跡	柴 305 他		
寄居町	県	工芸品	22	三嶋神社鰐口	赤浜
	町	天然記念物	23	塚田三嶋神社のヤブツバキ	赤浜
小川町	県	記念物	24	諏訪神社奉祀跡	奈良梨 781 他
			25	四ツ山城跡	高見 1008 他
			26	西古里地藏菩薩板石塔婆	西古里 510
	町	有形文化財	27	諏訪神社鰐口	奈良梨 292-1
			28	奈良梨陣屋跡	奈良梨 292-1
			29	鎌倉街道上道跡	伊勢根・能増・奈良梨
30	八和田神社の大スギ	奈良梨 292-1			
31	鈴木家の大クワ	奈良梨 600			
滑川町	国	重文・彫刻	32	木造阿弥陀如来坐像	和泉 1681
	県	有形・彫刻	33	観音菩薩及び勢至菩薩立像 (重文阿弥陀如来坐像両脇侍)	和泉 1681

出典:「深谷市文化財マップ」(令和3年2月、深谷市教育委員会文化振興課)

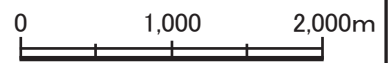
「文化財マップ」(熊谷デジタルミュージアム)

「文化財一覧」(埼玉県オープンデータポータルサイト)



凡例

- : 計画地
- : 市町界
- : 計画地から3km範囲
- : 国指定文化財
- : 県指定文化財
- : 市・町指定文化財



1 : 50,000

注) 図中の数字は、表5.2.7-1のNo.と対応している。
 出典: 「深谷市文化財マップ」(令和3年2月、深谷市教育委員会文化振興課)
 「文化財マップ」(熊谷デジタルミュージアム)
 「文化財一覧」(埼玉県オープンデータポータルサイト)

図5.2.7-1 指定文化財等の分布状況

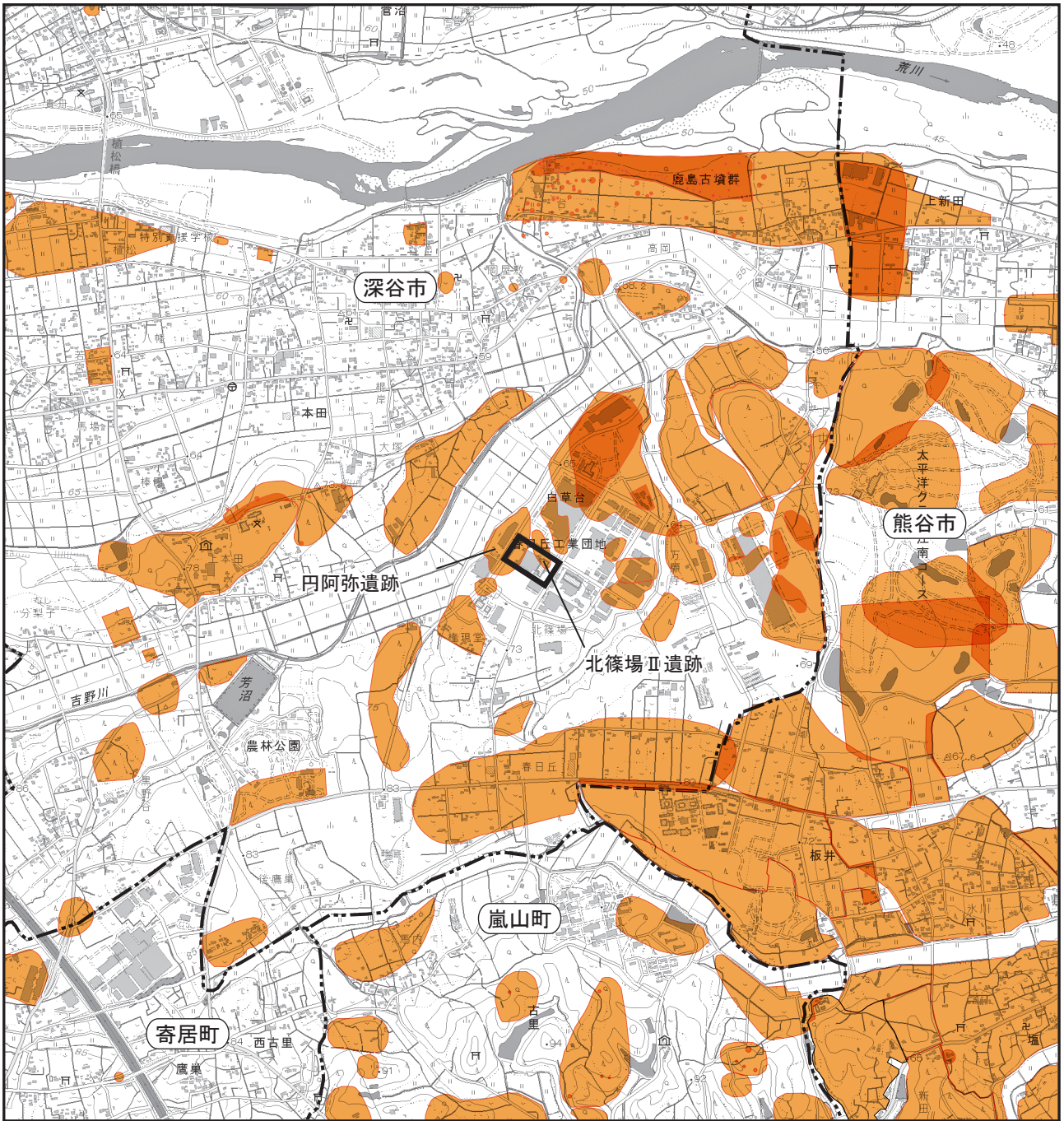
(2) 埋蔵文化財

計画地周辺の埋蔵文化財包蔵地は、図 5.2.7-2 に示すとおりである。
計画地は、表 5.2.7-2 に示す埋蔵文化包蔵地の範囲と重なっている。

表 5.2.7-2 計画地内の埋蔵文化財包蔵地

遺跡名	種別	時代
北篠場Ⅱ遺跡	集落跡	縄文、奈良、平安
円阿弥遺跡	集落跡	縄文、奈良、平安、鎌倉、室町

出典:「深谷市遺跡地図」(埼玉県埋蔵文化財情報公開ページ)



凡例



: 計画地



: 市町界



: 埋蔵文化財包蔵地



0 500 1,000m

1:25,000

出典:「深谷市遺跡地図」「嵐山町遺跡地図」「寄居町遺跡地図」(埼玉県埋蔵文化財情報公開ページ)
「くまっぷ」(熊谷市ホームページ)

図5.2.7-2 埋蔵文化財包蔵地の分布状況

5.2.8 一般環境中の放射性物質に係る環境の状況

(1) 空間放射線量の状況

計画地周辺における空間放射線量の測定結果は表 5.2.8-1(1)～(2)に、測定地点の位置は図 5.2.8-1 に示すとおりである。

空間放射線量は、深谷市では 0.026～0.052 μ Sv/h、熊谷市では 0.023～0.059 μ Sv/h、となっている。

表 5.2.8-1(1) 空間放射線量測定結果(深谷市)

単位: μ Sv/h

市名	測定地点	測定日	令和3年度	
			地上5cm	地上50cm
深谷市	川本南小学校	R3.8.6	0.032	0.031
		R4.2.10	0.038	0.036
	川本北小学校	R3.8.16	0.052	0.050
		R4.2.2	0.031	0.040
	川本中学校	R3.8.6	0.026	0.035
		R4.2.9	0.036	0.035

出典:「平成23年11月以降の放射線量測定および除染の結果」(深谷市ホームページ)

表 5.2.8-1(2) 空間放射線量測定結果(熊谷市)





単位: μ Sv/h

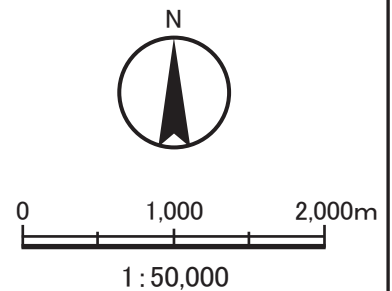
市名	測定地点	測定日	令和3年度		
			地表付近	地上50cm	地上1m
熊谷市	大麻生小学校	10月7日	0.039	0.035	—
	三尻小学校	10月11日	0.025	0.023	—
	江南南小学校	10月4日	0.052	0.051	—
	江南北小学校	10月4日	0.028	0.028	—
	大麻生中学校	10月7日	0.031	—	0.032
	江南中学校	10月4日	0.029	—	0.033
	江南幼稚園	10月4日	0.033	0.035	—
	松岩寺幼稚園	10月4日	0.055	0.059	—

出典:「市内小・中学校、保育所、幼稚園、公園、庁舎での定点における放射線測定結果」(熊谷市ホームページ)



凡例

-  : 計画地
-  : 市町界
-  : 計画地から3km範囲
-  : 空間放射線量測定地点



出典:「平成23年11月以降の放射線量測定および除染の結果」(深谷市ホームページ)
「市内小・中学校、保育所、幼稚園、公園、庁舎での定点における放射線測定結果」
(熊谷市ホームページ)

図5.2.8-1 空間放射線量測定地点の位置